

## 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：平成31年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業279社
3. 内 訳：製造業63、卸売業28、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業49  
サービス業39、建設業36
4. 回答企業数：204社（73.1%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

### 調査業種の区分変更について

- ・小樽市の観光業の経済動向を把握するため、平成30年度から「観光・サービス業」を「観光業」と「サービス業」に分類し、全7業種の調査としました。
- ・前年同期は「観光業」、「サービス業」の区分で調査を行っていないため、同業種の調査結果は今期実績と来期予想のみ掲載しています。

## 概 況

### — 市内景況は、悪化している —

前年同期（平成30年1月～3月）と比べた今期（平成31年1月～3月）の状況  
今期と比べた来期（2019年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲8.3で、前年同期と比べ5.9ポイント低下しました。小売、観光、飲食では、胆振東部地震で減少した客数の回復傾向が見られますが、全ての業種で原材料価格や仕入価格の上昇、人材不足が慢性的な課題となっています。

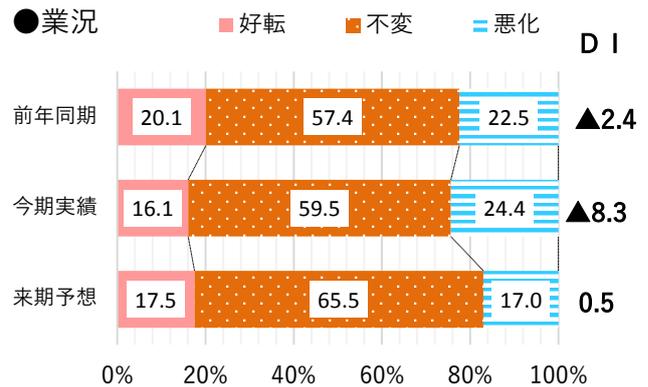
業種別DIは、製造業が同6.5ポイント低下の▲14.0となりました。原材料価格や包装資材の価格上昇による、採算の悪化が課題です。卸売業は同7.2ポイント低下の▲13.1となりました。賃金改定後の利益確保や、価格転嫁が課題ですが、新幹線や国道の工事に係る建築材料の売上は好調となりました。小売業は同13.1ポイント低下の▲23.1となりました。人件費の上昇や、購買力の流出が業況を悪化させています。運輸・倉庫業は同6.2ポイント上昇の▲25.0となりました。道路旅客運送と道路貨物運送で、売上の減少や従業員数の減少が見られる一方、倉庫業がやや好調でした。建設業は同31.8ポイント低下の0.0となりました。従業員不足が深刻な課題です。観光業は5.8となりました。諸経費の増加による採算の悪化が課題ですが、客数の回復傾向が見られます。サービス業は11.1となりました。飲食店を中心に、客数や売上の堅調な推移が見られます。

来期の業況判断DIは0.5で、プラスに転じました。連休中の客数増加が期待される一方で、働き方改革への対応や、従業員不足、10月に控えた消費税増税の影響が懸念されています。

業況、売上、採算

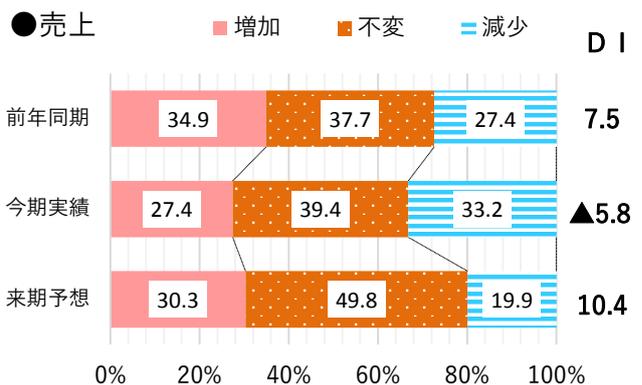
今期（H31.1～3）の業況判断DIは▲8.3で、前年同期（H30.1～3）と比べ5.9ポイント低下しました。

来期（2019.4～6）は、今期と比べ業況が好転すると予想しています。



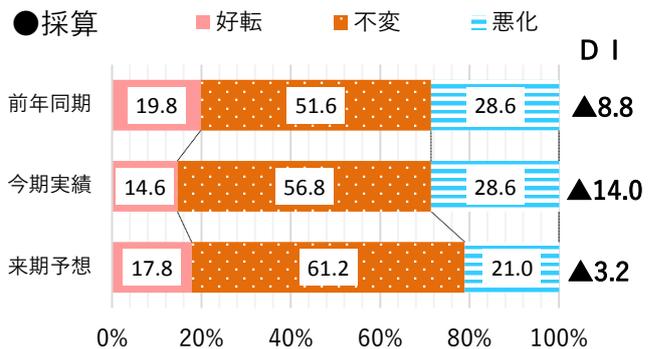
今期の売上高DIは▲5.8で、前年同期と比べ13.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が増加に転じると予想しています。

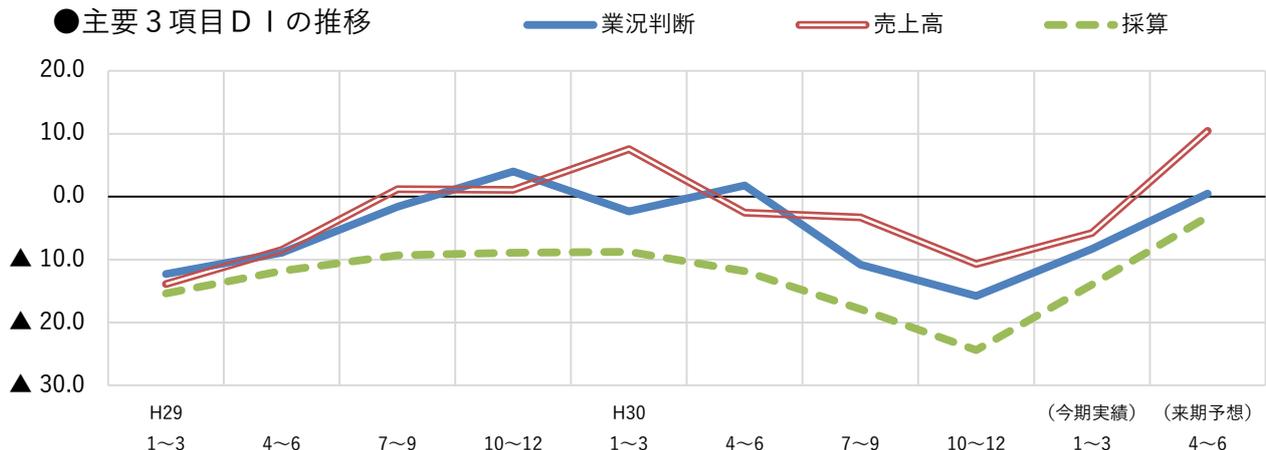


今期の採算DIは▲14.0で、前年同期と比べ5.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



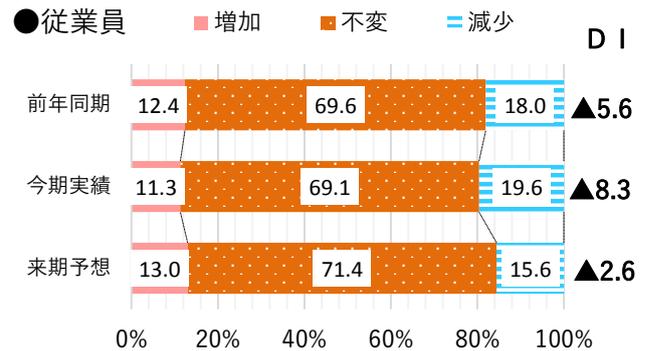
●主要3項目DIの推移



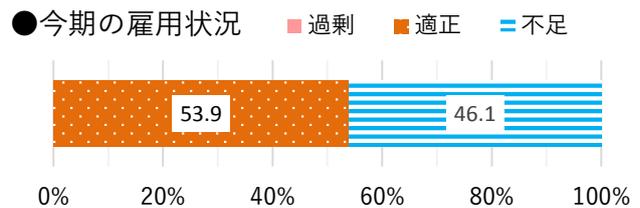
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.3で、前年同期と比べ2.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は53.9%、不足していると回答した企業の割合は46.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の45.5%を占めています。

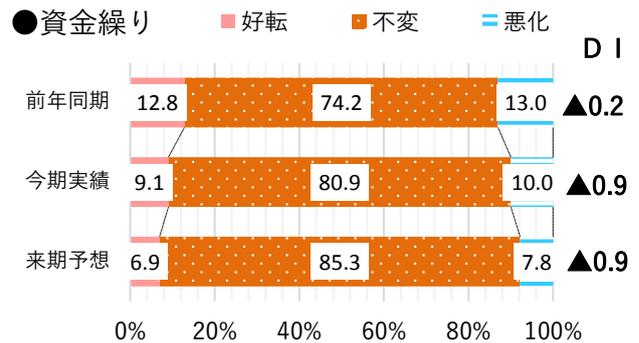
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	8
	不足	15
不変だった	過剰	0
	適正	93
	不足	48
減少した	過剰	0
	適正	9
	不足	31

資金繰り、設備投資

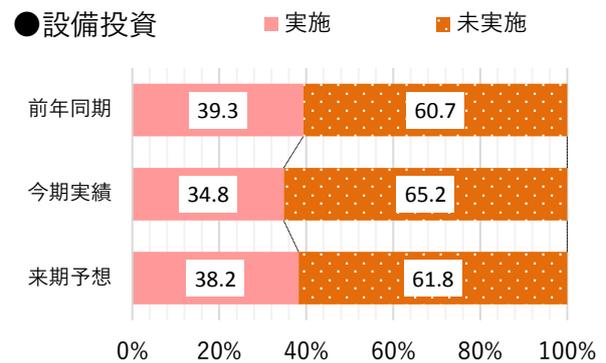
今期の資金繰りDIは▲0.9で、前年同期と比べ0.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの横ばいを予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった204社の34.8%にあたる71社が実施、前年同期と比べ4.5%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、38.2%にあたる78社が設備投資を計画していると回答しています。

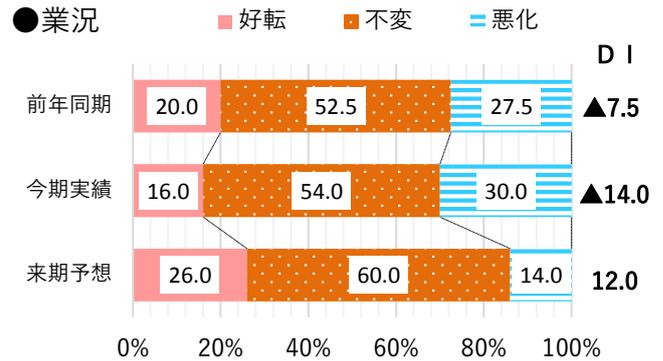


# 製造業

## 業況、売上、採算

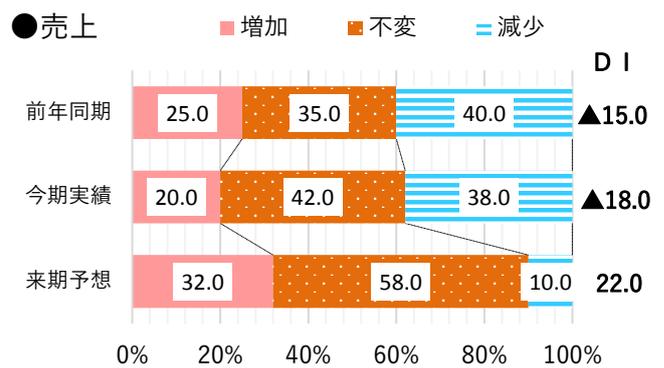
今期(H31.1~3)の業況判断DIは▲14.0で、前年同期(H30.1~3)と比べ6.5ポイント低下しました。

来期(2019.4~6)は、今期と比べ業況の好転を予想しています。



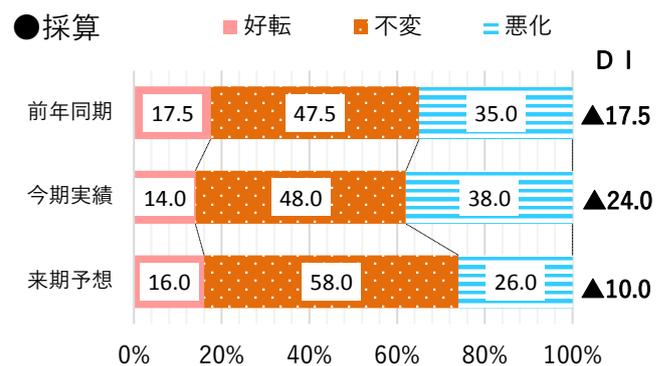
今期の売上DIは▲18.0で、前年同期と比べ3.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が大幅な増加に転じると予想しています。

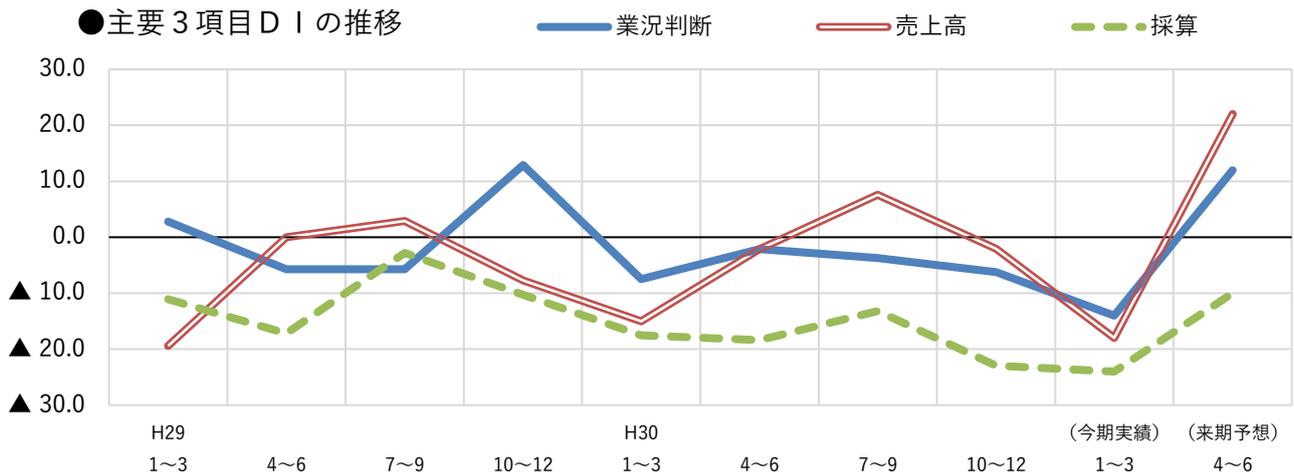


今期の採算DIは▲24.0で、前年同期と比べ6.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



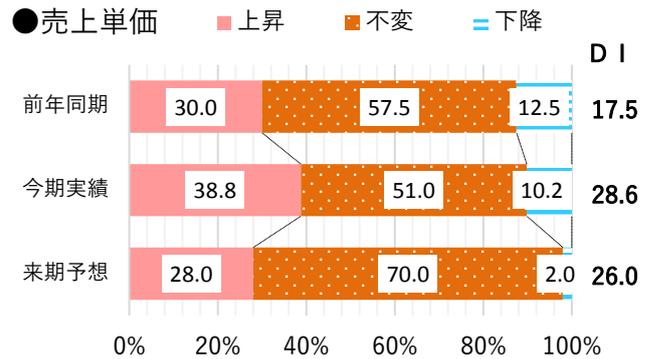
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

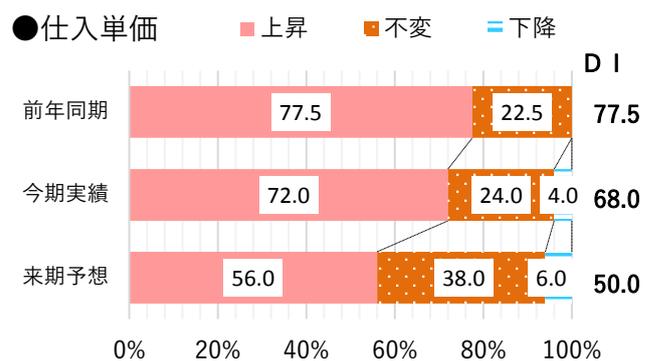
今期の売上単価DIは28.6で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上単価に大きな変化はないと予想しています。



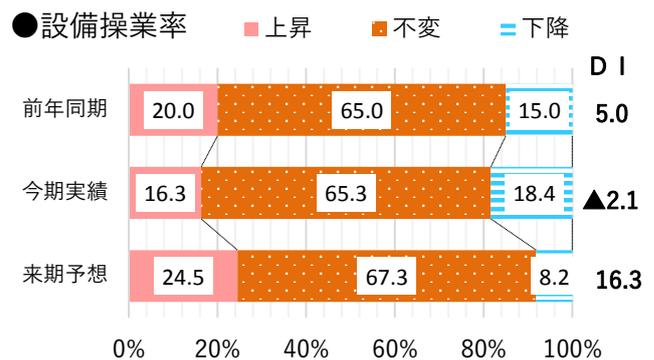
今期の仕入単価DIは68.0で、前年同期と比べ9.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向は続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲2.1で、前年同期と比べ7.1ポイント低下しました。

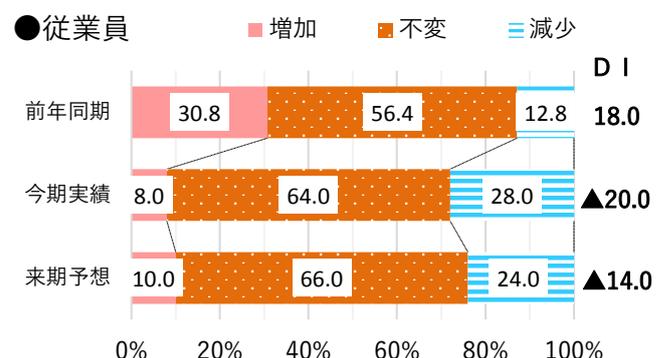
来期は、今期と比べ設備操業率が上昇に転じると予想しています。



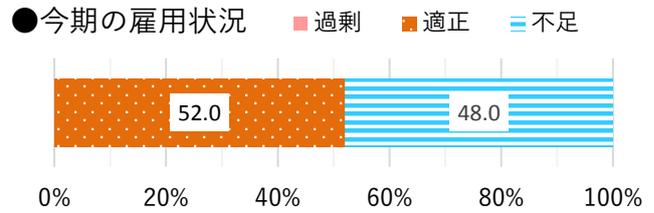
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲20.0で、前年同期と比べ38.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は52.0%、不足していると回答した企業の割合は48.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の42.0%を占めています。

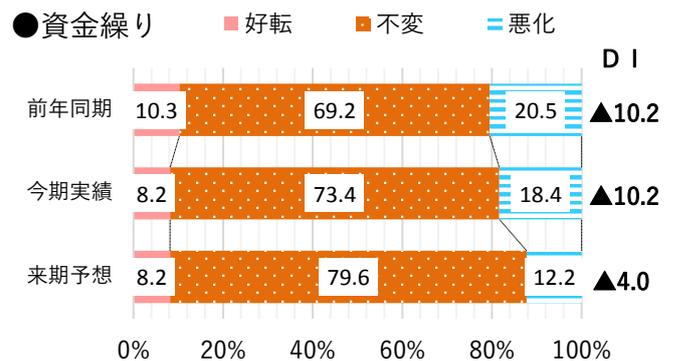
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	21
	不足	11
減少した	過剰	0
	適正	4
	不足	10

## 資金繰り、設備投資

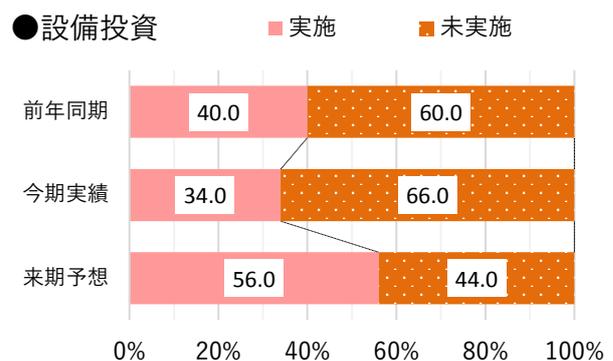
今期の資金繰りDIは▲10.2で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



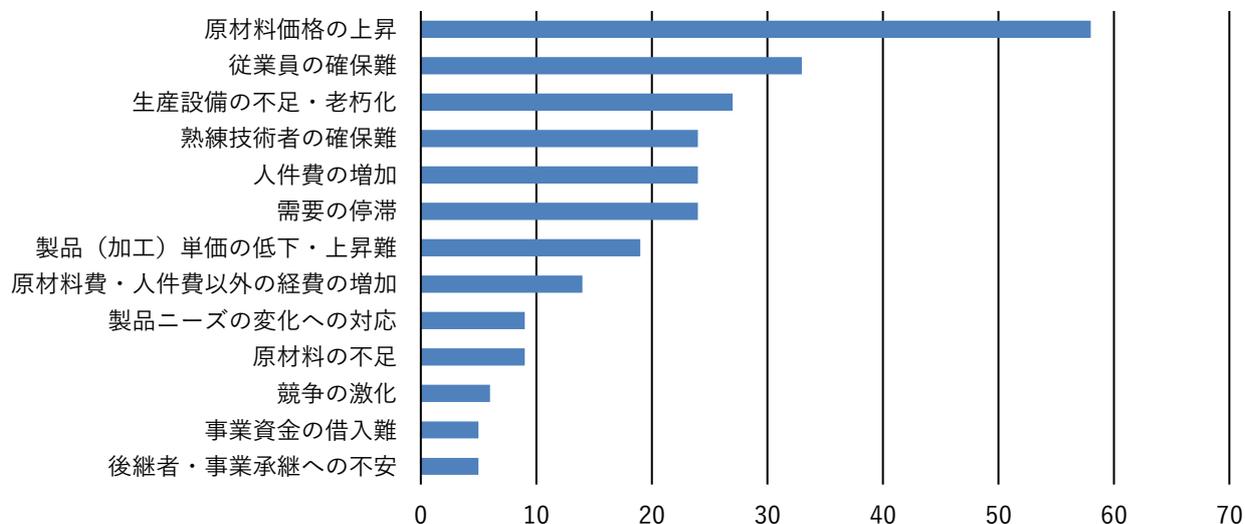
設備投資を実施した企業の割合は34.0%で、前年同期と比べ6.0%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「工場建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は56.0%で、今期と比べ増加すると予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「生産設備の不足・老朽化」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 業界全体として業績が良く、当社も流れに乗って結果を出せている。企業説明会等に参加し、中途採用者を数名確保したが、技術系の人材不足は解消されていない。（金属製品）
- 物件の引合いは続いており、仕入価格の上昇に合わせ、売上価格も上昇してきている。しかし、当社への発注遅れや、短納期が重なり、業況は今一歩となった。（金属製品）
- 売上額が減少した。（金属製品）
- 高値だったナフサ価格が少し下がりはじめた。現状、原材料価格は高いままだが、来期は下がる見込みである。（プラスチック）
- 原料仕入価格の高騰分を販売価格に転嫁できていない。人材確保に苦慮している。（プラスチック）
- 販路拡大が課題である。若年層の人材が不足しており、求人に苦労している。（機械器具）
- 昨年度にトラックの運転手が退職し、営業社員が運転を代行したため、営業活動に苦戦した。（紙製品）
- 原材料仕入価格の上昇や、青果物の不作、水産物の不漁により、業況が悪化した。（紙製品）
- 売上は例年並みに落ちてきた。依然として、原材料仕入価格アップの要請が続いている。（医薬品）
- 官公庁からの受注が減少した。原材料の単価上昇したため、採算が悪化した。（衣服）
- 人材確保と育成に力を入れる。（その他繊維製品）
- 地理的表示（GI）保護制度（※）の指定を受け、比較的堅調な推移となった。（飲料）  
※生産方法や生産地の特性が、品質等の特性に結びついている製品の名称を知的財産として登録し、保護する制度
- 売上が伸び、利益を上げることができた。（食料品）
- 新規取引先がほぼ確定し、道外での売上増加が予想される。道内では、札幌の中央卸売市場での売上が減少した。（食料品）
- 昨年の運賃値上げに伴う資材等のコスト高が影響した。（食料品）

- 低価格製品の売上が増加したが、原材料価格の上昇や、人材の確保に苦労している。（食料品）
- 従業員は大卒者、高卒者ともに増加の見込みだが、工場作業員が不足する。働き方改革による、残業時間の短縮が重荷である。（食料品）
- 営業戦略として、値上げを実施した。売上が減少、採算を重視した経営ができた。生乳、段ボール等の仕入単価の上昇には、新商品、新単価による収益で対応した。（食料品）
- 主原料の仕入単価が低下したが、売上の減少分、人件費の増加分を吸収しきれなかった。（食料品）
- 人口減少により、売上が減少する中で、原材料価格、運賃、最低賃金が上昇しており、価格転嫁も難しい状況である。（食料品）
- 既存客への販売数量が減少し、原材料価格が少しずつ上昇した。従業員の能力不足を感じる。（食料品）
- 売上が減少し、仕入価格が上昇したため、利益率が多少低くなったが、利益は確保できた。（食料品）
- 商品値上げにより、売上額が上昇した。豆の不作により、仕入価格が上昇した。（食料品）
- 運賃や、包装資材等の価格上昇により、採算が悪化した。（食料品）
- 雪まつりや春節の時期に、昨年ほど売上がなかった。外国人観光客の購買傾向の変化を感じる。（食料品）
- 主力商品の値上げ以降、売上が減少した。（食料品）

## [来期の業況について]

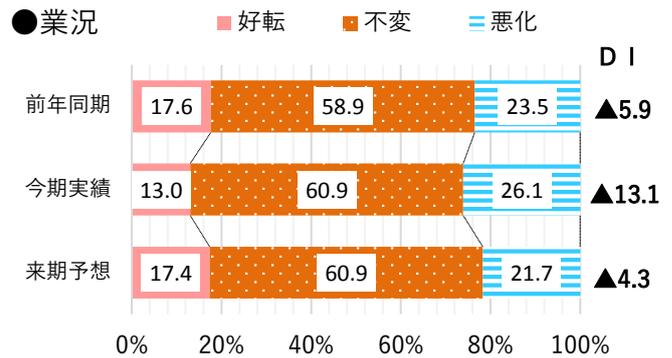
- 引き続き人材確保に苦戦する見込みである。働き方改革によって工場稼働時間が制限された場合は、加工量を減らす可能性もあるため、売上、利益の減少も想定される。（金属製品）
- 遅れ気味の物件に取り組む予定であり、売上単価の上昇による業況好転を期待している。（金属製品）
- 仕入価格、人件費の上昇が見込まれる。（金属製品）
- 新規設備導入のため好転する見込み。（金属製品）
- 原材料価格は下がり始めるが、運賃、電力等の諸経費は上昇を見込む。（プラスチック）
- 原料仕入価格の下落が予想される。大規模修繕を計画しているため、工場稼働率の低下を見込んでいる。（プラスチック）
- 継続的、安定的な受注の確保が目標である。（機械器具）
- 就業時間の短縮により、生産額が低下し、利益の確保が困難になると予想する。（ゴム製品）
- 原材料仕入単価の上昇を受け、製品価格を改定するため、売上の増加、業況の改善を見込む。（紙製品）
- 製造要員として新卒者2名が確保できるため、人員不足感は解消される見込み。（医薬品）
- 官公庁からの受注増加による、業況の好転が見込まれる。（衣服）
- 胆振東部地震の復興に関する物件が増える見込み。（その他繊維製品）
- ゴールデンウィークを、販売数の増加に結び付けたい。（飲料）
- 営業強化、新製品販売を予定しているが、需要の減少が見込まれる。（食料品）
- 新製品の引合いが強く、来期も好調の見込みである。（食料品）
- 工場稼働、生産の効率化をより推進する。（食料品）
- 人材確保が厳しくなると予想する。（食料品）
- 10月の消費増税を控え、更なる悪化が予想される。（食料品）
- 経営方針の転換が必要だと考える。（食料品）
- 製造スタッフの人材不足が続いているが、営業の人材確保ができたため、来期は戦略的な販売計画のもと、売上、利益ともに伸ばしていきたい。（食料品）
- 商品の値上げが一巡するため、売上は変わらないだろう。豆の仕入価格の下落を予想する。（食料品）
- 原材料不足、価格高騰により、業況の悪化が予想される。（食料品）
- 4月以降、一部商品の価格改訂を行う予定である。消費の力強さは期待できない。（食料品）

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

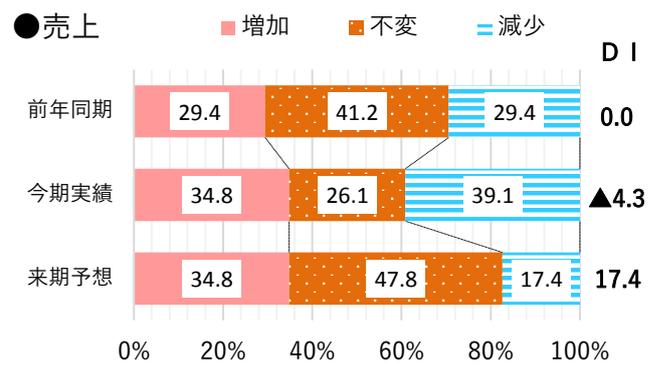
今期(H31.1～3)の業況判断DIは▲13.1で、前年同期(H30.1～3)と比べ7.2ポイント低下しました。

来期(2019.4～6)は、今期と比べ業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



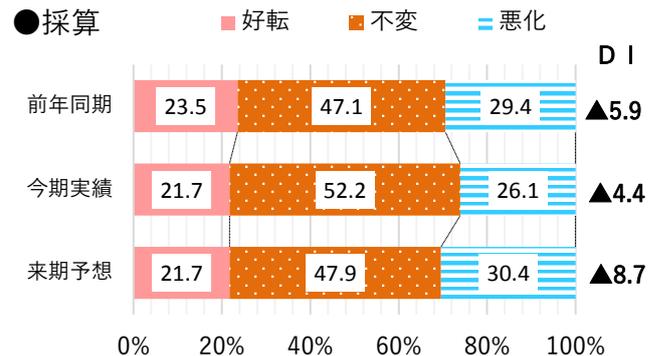
今期の売上DIは▲4.3で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が増加に転じると予想しています。

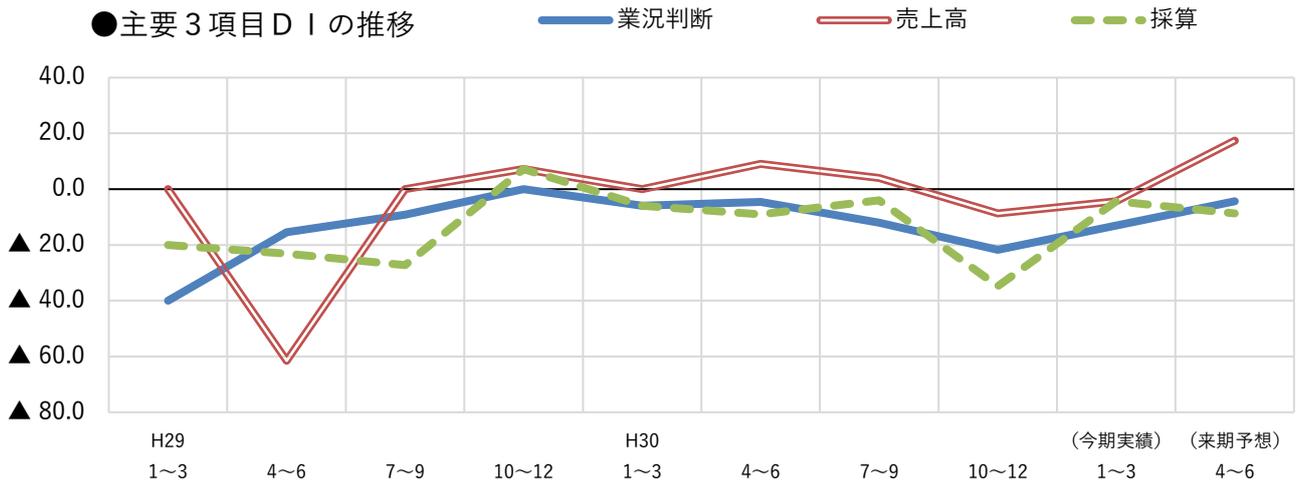


今期の採算DIは▲4.4で、前年同期と比べ1.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が強まると予想しています。



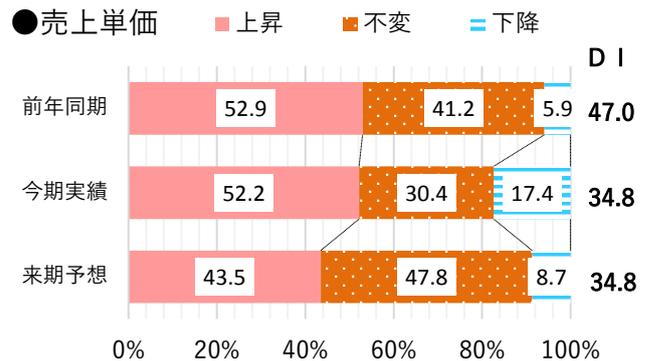
●主要3項目DIの推移



## 売上単価、商品仕入単価

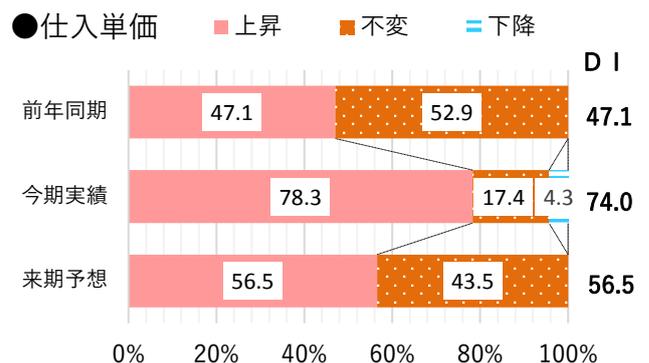
今期の売上単価DIは34.8で、前年同期と比べ12.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ横ばいを予想しています。



今期の仕入単価DIは74.0で、前年同期と比べ26.9ポイント上昇しました。

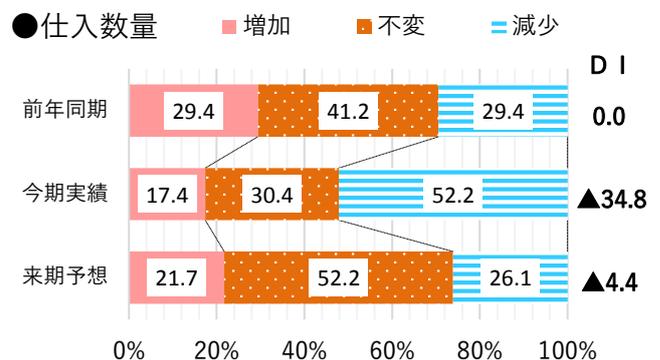
来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

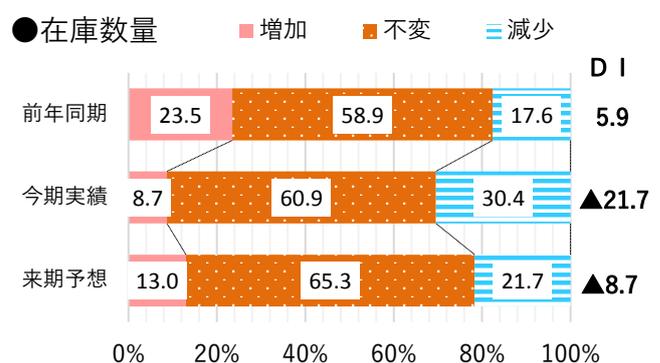
今期の仕入数量DIは▲34.8で、前年同期と比べ34.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ仕入数量の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲21.7で、前年同期と比べ27.6ポイント低下しました。

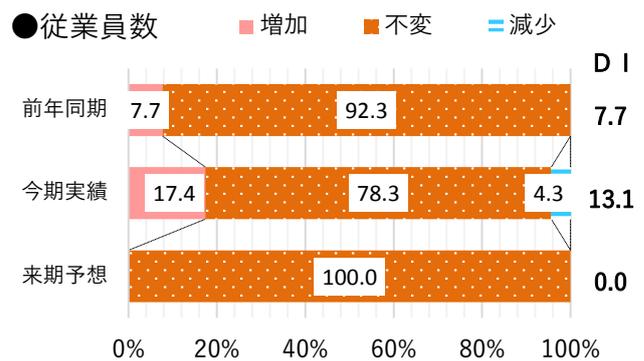
来期は、今期と比べ在庫数量の減少傾向が弱まると予想しています。



## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは13.1で、前年同期と比べ5.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は69.6%、不足していると回答した企業の割合は30.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の60.8%を占めています。

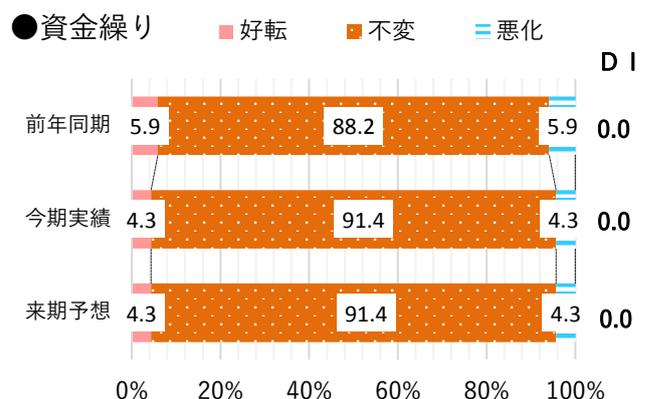
次いで多かった回答は「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	14
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

## 資金繰り、設備投資

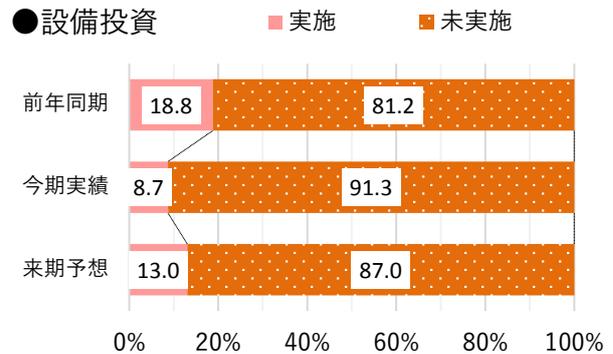
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は0.0で、今期と比べ資金繰りの横ばいを予想しています。



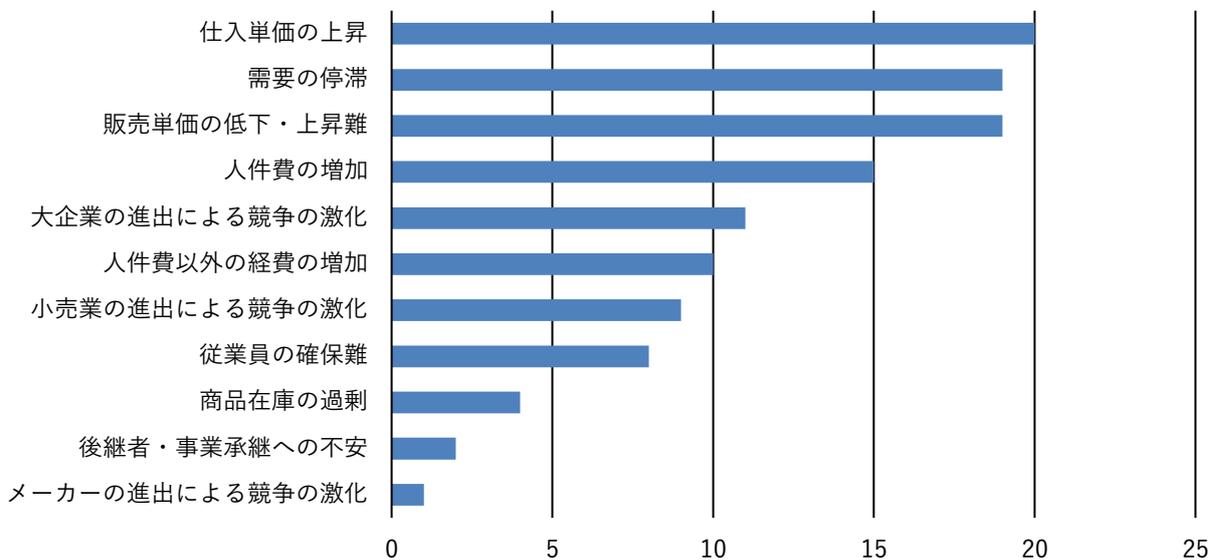
設備投資を実施した企業の割合は8.7%で、前年同期と比べ10.1%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」で、他の回答はありませんでした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は13.0%で、今期と比べ増加を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、「販売単価の低下・上昇難」（同位）、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 北海道の基幹産業である農水産業の低迷や、海外観光客の購買力の低下を感じる。運送業界の相次ぐ値上げにより、採算が若干悪化した。（食料・飲料卸売）
- 売上高は微増となった。全体的に好転傾向にあるが、労務管理にやや課題があり、業務の効率化、投資が必要である。（食料・飲料卸売）
- 北海道新幹線（倶知安～札幌間）の工事に係る生コン、セメント、骨材と、国道5号（余市～共和間）の工事に係る生コンの売上が増加した。（建築材料卸売）
- 販売量が前期と変わらず、売上価格の上昇分で売上額は増加したものの、仕入価格上昇分を売上に完全に転嫁出来ていないので、粗利益は低下し苦戦している。（鉱物・金属材料卸売）
- 仕入商品が全面的に値上げしたため、一部商品の販売価格への転嫁を行った。売上高の確保にはつながったが、利益率は低いままである。（包装資材卸売）

- 業務内容の改革により、利益率が向上した。（電機機械器具卸売）
- 人事評価制度、キャリアパス制度の導入により、賃金改定を進めている。（電機機械器具卸売）
- 残業時間の管理、有給の取得促進などの働き方改革を進めている。（電機機械器具卸売）
- 運送業者の配送状況の悪化が懸念材料である。仕入単価上昇分の価格転嫁が課題である。（塗料卸売）
- 仕入価格は上昇したが、仕入数量は減少したため、仕入に係る費用は大きく変わっていない。（石油卸売）
- 仕入価格の上昇で、利益確保に苦慮している。（事務用品卸売）

### [来期の業況について]

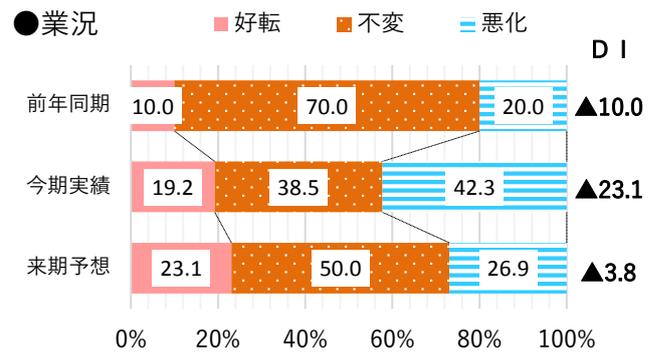
- 好転を見込む。新卒者が入社するため、人手不足が解消される。人と利益のかじ取りが大事な時期だと認識している。業務効率化が課題である。（食料・飲料卸売）
- 10月の消費増税に伴い、メーカー各社で商品価格改定の動きが増加している。また、消費マインドの一時的な落ち込みが懸念される。（食料・飲料卸売）
- 北海道新幹線（倶知安～札幌間）の工事物件増加で売上が上昇する見込み。（建築材料卸売）
- 国道5号（余市～共和間）のトンネル工事発注に伴う生コン他の売上が上昇する見込み。（建築材料卸売）
- 現在以上にメーカー価格が上昇すると仕事の見直しに発展する可能性がある。（鉱物・金属材料卸売）
- 業況は、多少の悪化を予想している。（電機機械器具卸売）
- 仕入価格の変動が読み切れない。（石油卸売）
- 消費税増税を控えているため、消費の落ち込みが不安である。（事務用品卸売）

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

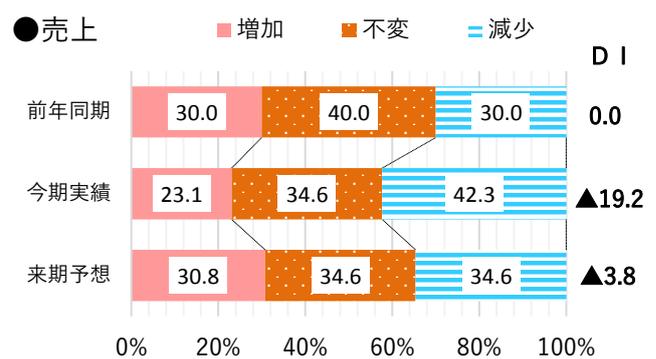
今期(H31.1~3)の業況判断DIは▲23.1で、前年同期(H30.1~3)と比べ13.1ポイント低下しました。

来期(2019.4~6)は、今期と比べ業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



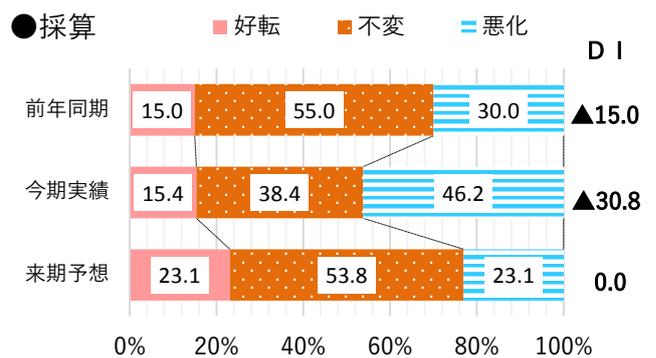
今期の売上高DIは▲19.2で、前年同期と比べ19.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が弱まると予想しています。

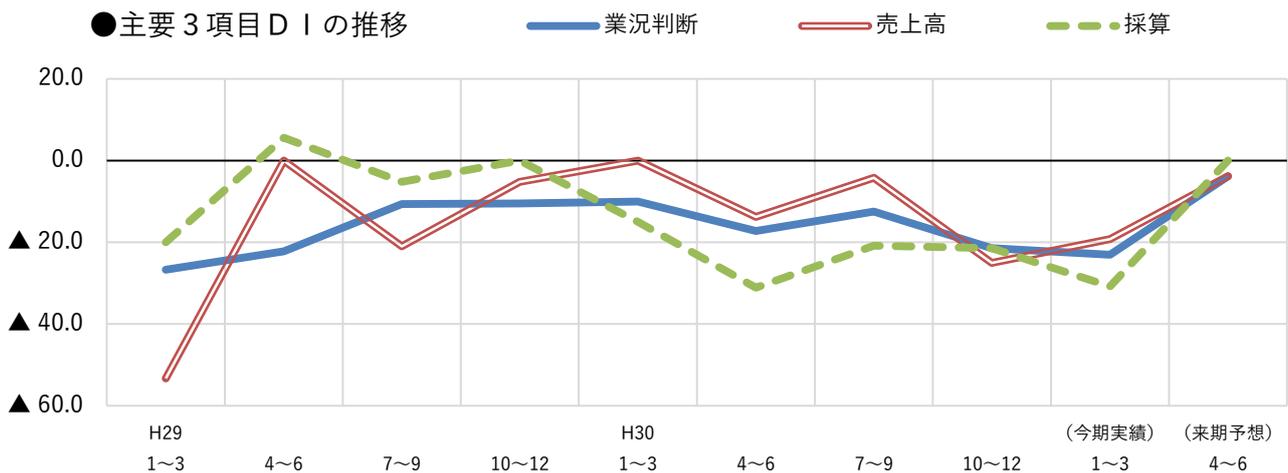


今期の採算DIは▲30.8で、前年同期と比べ15.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



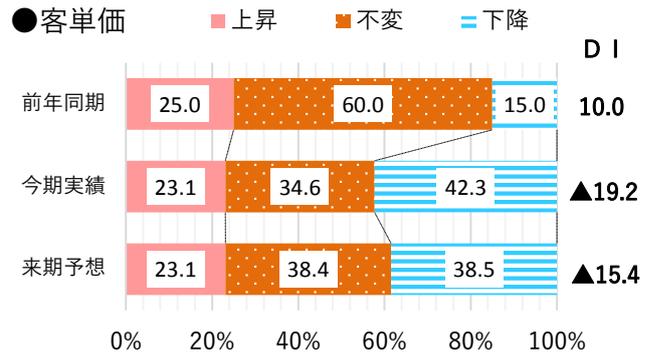
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

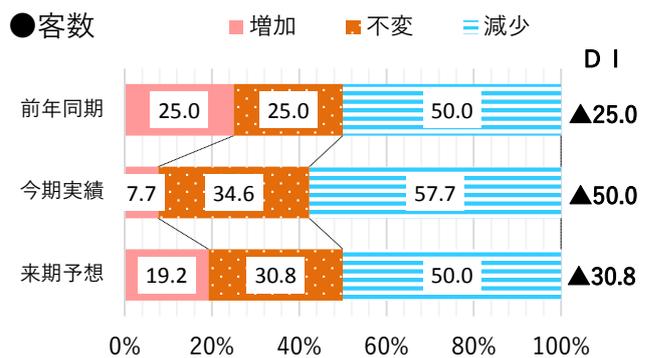
今期の客単価DIは▲19.2で、前年同期と比べ29.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲50.0で、前年同期と比べ25.0ポイント低下しました。

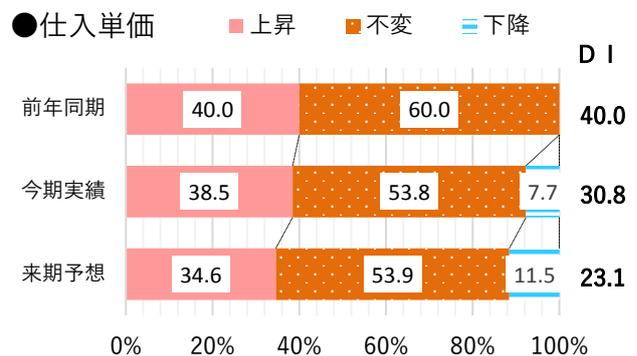
来期は▲30.8で、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

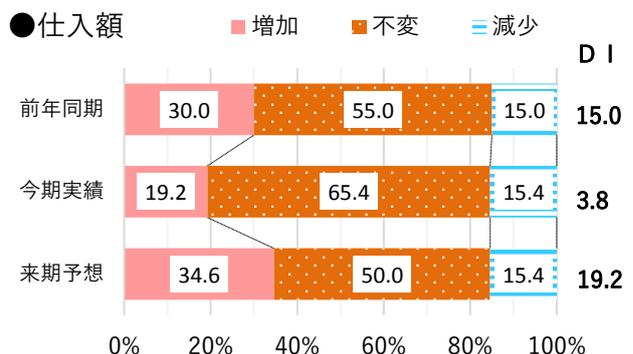
今期の仕入単価DIは30.8で、前年同期と比べ9.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ仕入単価上昇の動きが弱まるものの、引き続き上昇傾向が続くと予想しています。



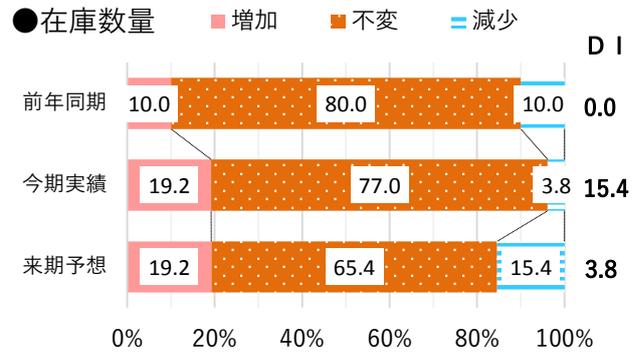
今期の仕入額DIは3.8で、前年同期と比べ11.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ仕入額の増加傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは15.4で、前年同期と比べ15.4ポイント上昇しました。

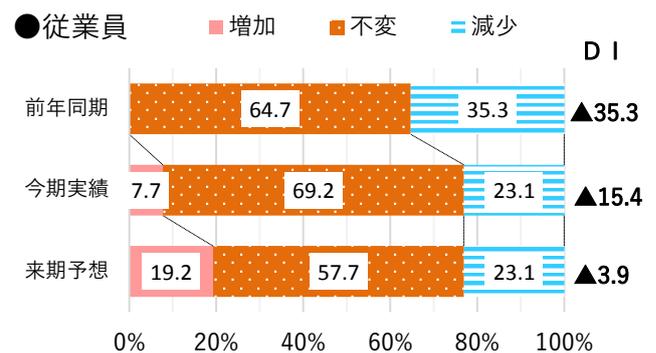
来期は、在庫数量の増加傾向が弱まると予想しています。



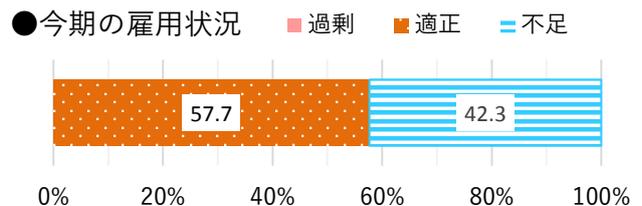
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲15.4で、前年同期と比べ19.9ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は57.7%、不足していると回答した企業の割合は42.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の57.6%を占めています。

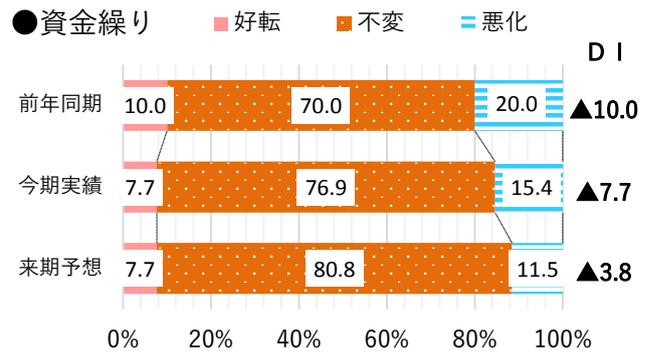
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	6

資金繰り、設備投資

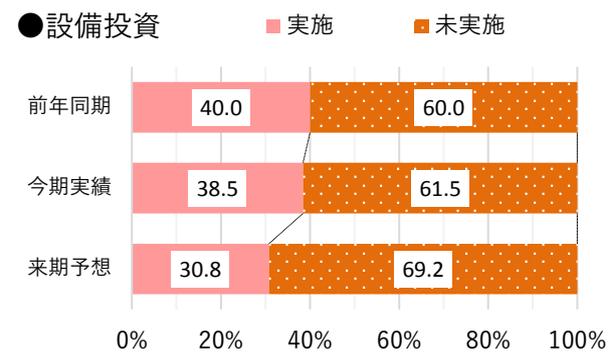
今期の資金繰りDIは▲7.7で、前年同期と比べ2.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



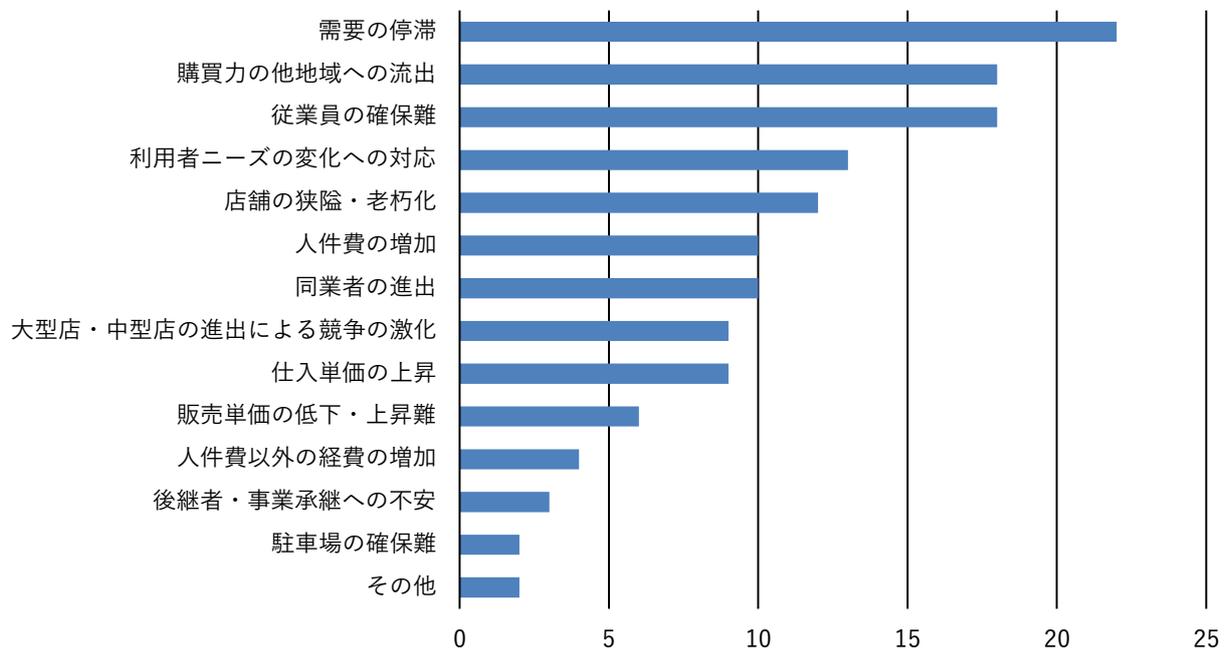
設備投資を実施した企業の割合は38.5%で、前年同期と比べ1.5%減少しました。投資内容は1位が「販売設備」、2位が「店舗」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は30.8%で、今期と比べ減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「購買力の他地域への流出」、「従業員の確保難」（同位）、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 観光関連施設への納品は、震災からの立ち直りが早く堅調に推移した。店頭販売は、後志、余市の商品イメージが良く伸長した。ネットショップも少額ながら伸長した。(食料品小売)
- 売上額は不変であるが、人件費等の上昇で利益が圧迫されている。(食料品小売)
- 原材料価格が上昇した。紙、プラスチック容器の値上げにより、業況が悪化した。(菓子製造小売)
- 他社の新規開店等が影響し、売上が著しく低迷した。(食肉小売)
- 最近の消費者は、インターネットで商品を購入するため、小売店の販売量が減少しており、人件費を含む経費も増加していることから、資金力のある事業者以外は厳しい状態が続く。(衣服・身の回り品小売)
- 今期の不況が続く見込みである。(衣服・身の回り品小売)
- 昨年までの販売主力商品が不振のため、売上減少。(衣服・身の回り品小売)
- 客数は変わらないが、販売単価上昇により経常利益が増加した。(自動車小売)
- 利用客数が減り、売上高が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 人材確保が最大の課題である。(自動車小売)
- 売上が減少した。(自動車小売)
- 客数の減少が厳しい。(ドラッグストア)
- 競合店が増加したことで、利用客数が減少した。(大型店)

## [来期の業況について]

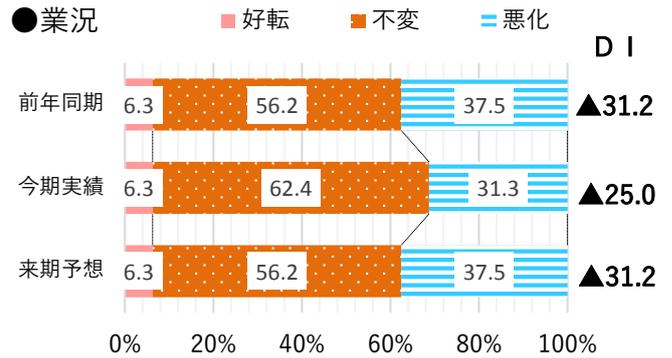
- 10月に控えた消費税増税の影響が予想される。(食料品小売)
- 人手不足が予想される。(食料品小売)
- 今期と変わらない見込みである。顧客のニーズに合った商品を考えなければならない。(衣服・身の回り品小売)
- 主力商品の切替を行い、軌道に乗せていく。(衣服・身の回り品小売)
- 人事異動等による需要増を見込む。(衣服・身の回り品小売)
- 来期も今期と同様の業況を見込む。中国の経済が大きく減速することを見込んでおり、地域経済へのインパクトが不安である。(自動車小売)
- 今後も期待できない。小樽市には人口増加、雇用増加の対策を考えてほしい。(ドラッグストア)
- 人材確保が難しく、労働力の確保が課題になるだろう。(大型店)

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

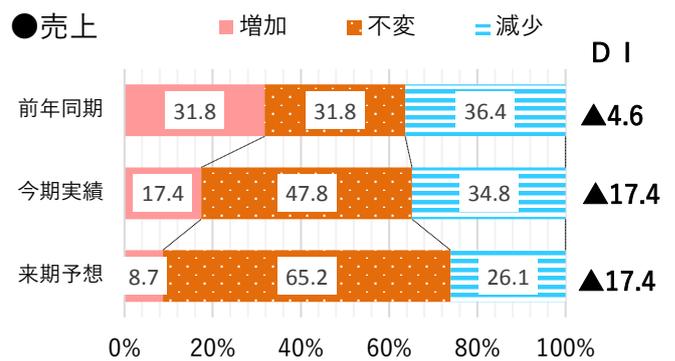
今期（H31.1～3）の業況判断DIは▲25.0で、前年同期（H30.1～3）と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期（2019.4～6）は、今期と比べ業況の悪化傾向が強まると予想しています。



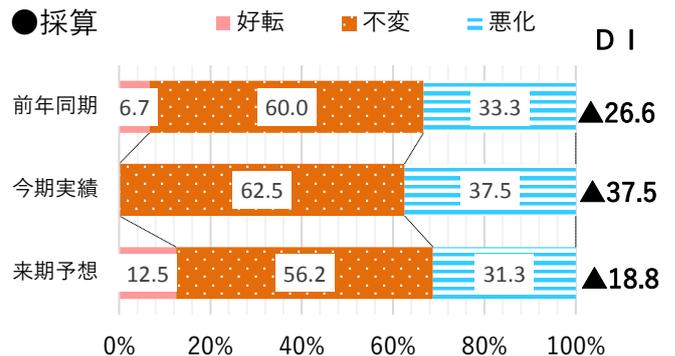
今期の売上高DIは▲17.4で、前年同期と比べ12.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上の横ばいを予想しています。

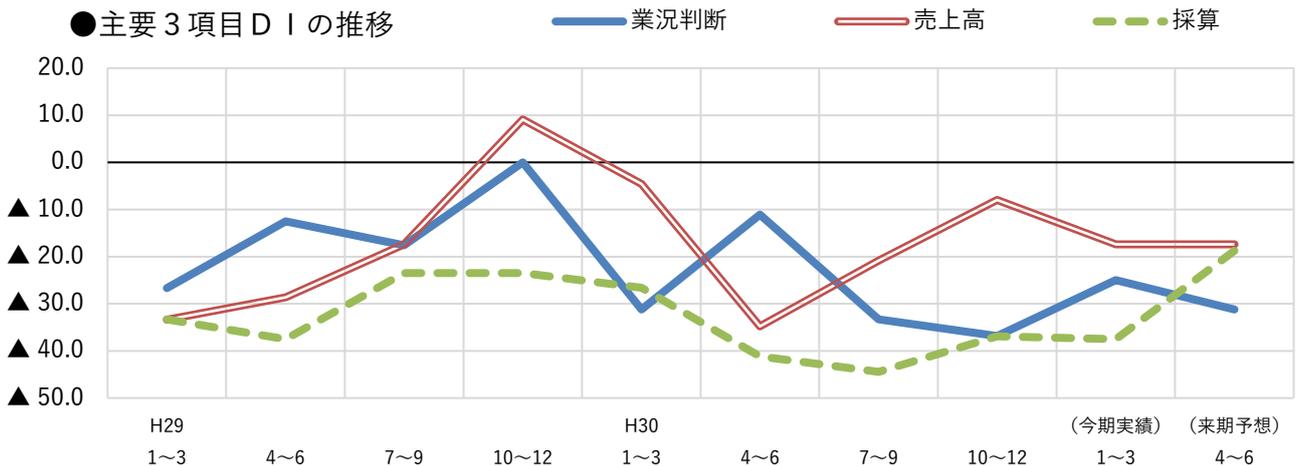


今期の採算DIは▲37.5で、前年同期と比べ10.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



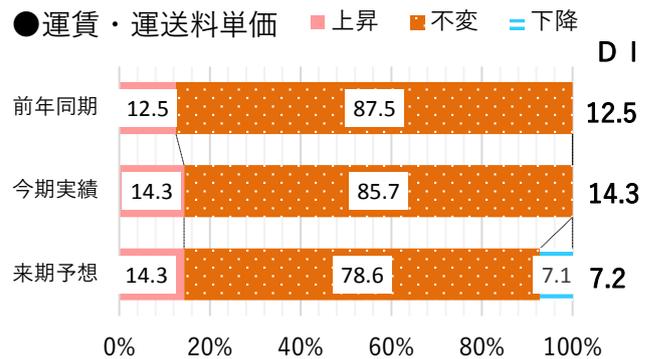
### ●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

今期の運賃・運送料単価DIは14.3で、前年同期と比べ1.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、運賃・運送料単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

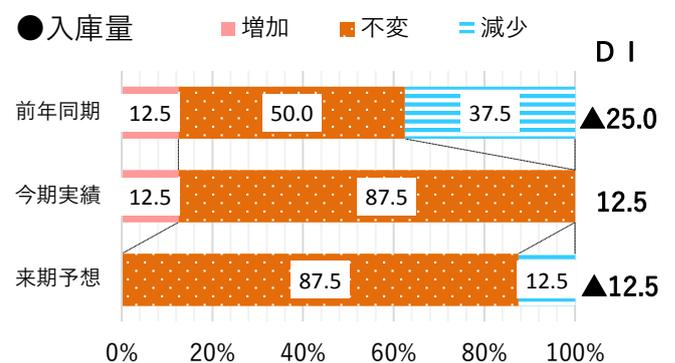
来期は、今期と比べ保管料単価の横ばいを予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

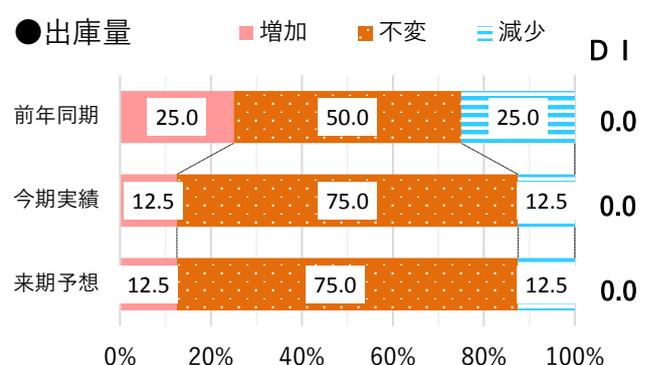
今期の入庫量DIは12.5で、前年同期と比べ37.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ入庫量が大幅に減少すると予想しています。



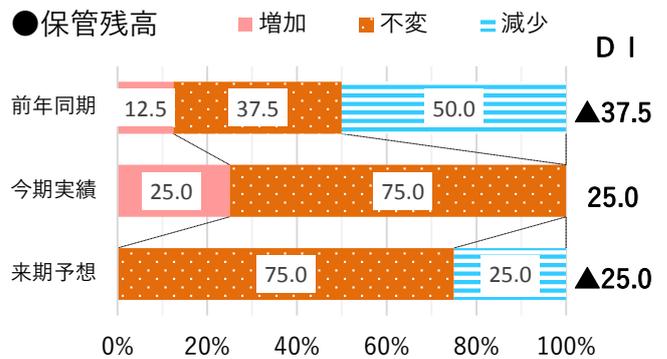
今期の出庫量DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、今期と比べ出庫量の横ばいを予想しています。



今期の保管残高DIは25.0で、前年同期と比べ62.5ポイント上昇しました。

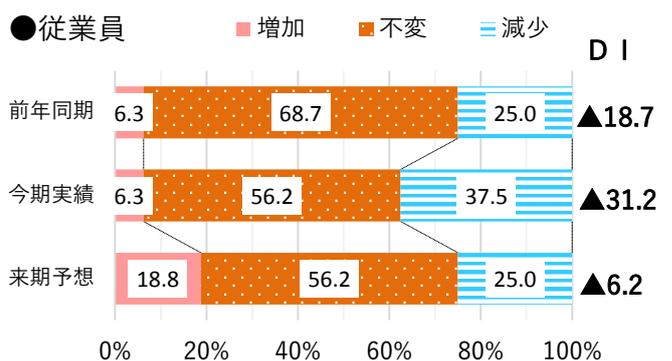
来期は、今期と比べ保管残高が大幅に減少すると予想しています。



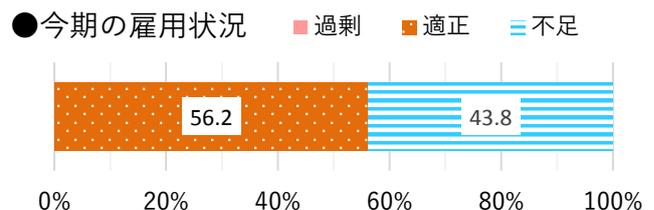
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲31.2で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は56.2%、不足していると回答した企業の割合は43.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の43.7%を占めています。

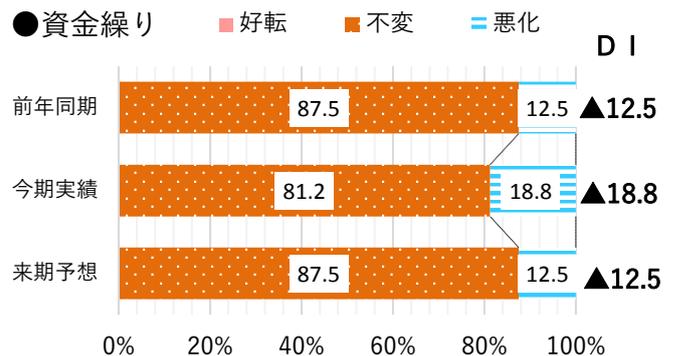
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	4

## 資金繰り、設備投資

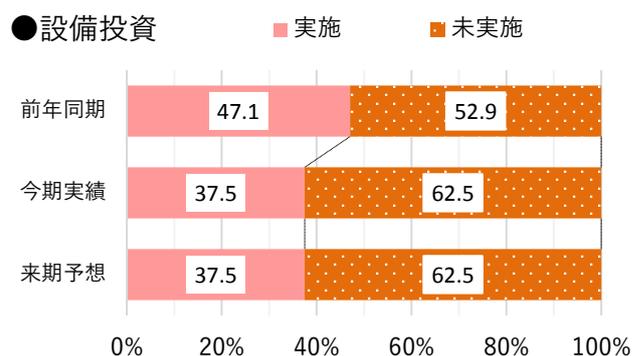
今期の資金繰りDIは▲18.8で、前年同期と比べ6.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



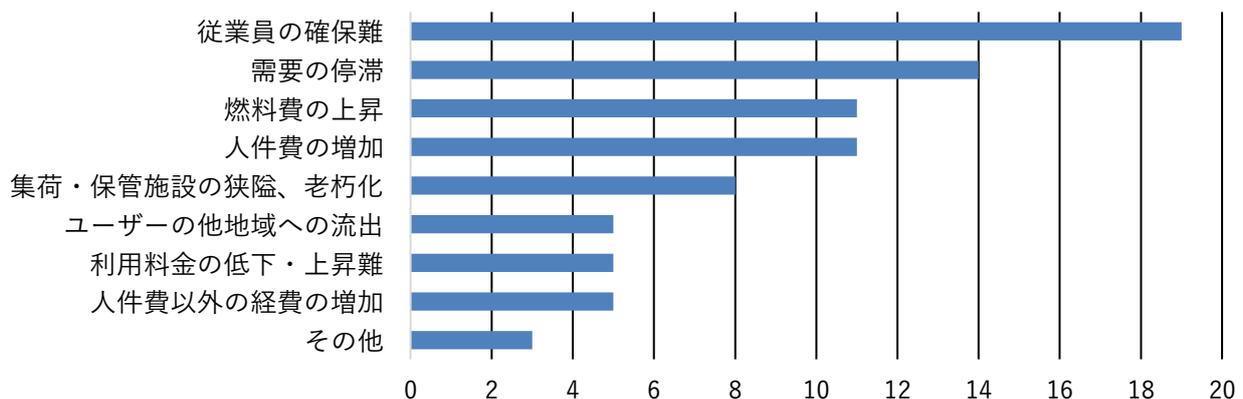
設備投資を実施した企業の割合は37.5%で、前年同期と比べ9.6%減少しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、 「福利厚生」、「付帯施設」(同位)、2位が「土地」、「集荷・保管施設」、 「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は37.5%で、今期と比べ横ばいを予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「需要の停滞」、3位が「燃料費の上昇」、「人件費の増加」(同位)の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 各種工事が遅れ、運搬量が減少し、売上が伸びなかった。軽油価格は上昇傾向にある。(道路貨物運送)
  - 貨物(融雪剤等)の保管により、収益増となる。従業員不足が課題である。(道路貨物運送)
  - 農作物の不作の影響で、米、イモ、玉ねぎ等が少なくなっている。(道路貨物運送)
  - ドライバーの労働時間の抑制で仕事量を減らしているため、売上と利益が減少した。(道路貨物運送)
  - 労働時間の短縮により、売上が減少した。(道路貨物運送)
  - 燃料費が上昇している。(道路貨物運送)
  - 売上額が減少した。(道路貨物運送)
  - 燃料費は比較的落ち着いているが、人口減、ドライバー不足により減収となっている。(道路旅客運送)
  - 在庫量の増加に伴い、売上額も増加した。(倉庫)
  - 燃料油価格変動調整金を導入していることで、貨物の運賃単価が上昇したが、荷動き低迷により、運送量が減少した。海象が比較的安定していたことと、日並びの関係で、旅客は増加した。(水運)
- ※燃料油価格変動調整金：燃料価格の変動に対して調整される割り増し料金のこと。

[来期の業況について]

- 公共工事の進捗が不透明である。軽油単価次第で、採算の悪化が継続する見込み。(道路貨物運送)
- 売上額が減少する見込み。(道路貨物運送)
- 天候不順の影響から、農産物の在庫量減少が予想される。(倉庫)
- 燃料価格が多少落ち着き、ゴールデンウィークが10連休となるため、旅客の増加が見込めるが、貨物の荷動きは鈍いと予想する。(水運)

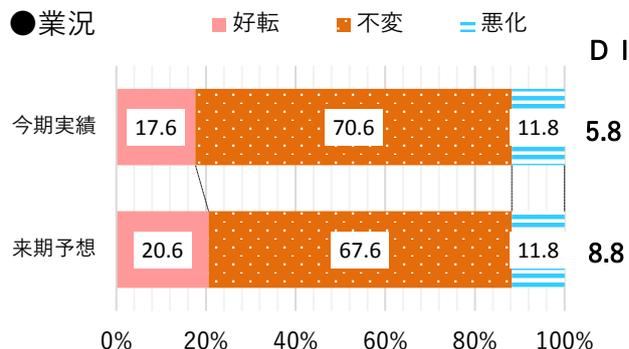
# 観光業

※観光業には、前年同期比のデータを記載しておりません。

## 業況、売上、採算

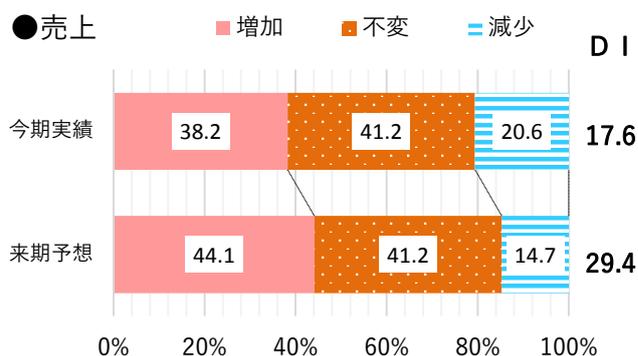
今期（H31.1～3）の業況判断DIは5.8となりました。

来期（2019.4～6）は、今期と比べ業況の好転傾向が強まると予想しています。



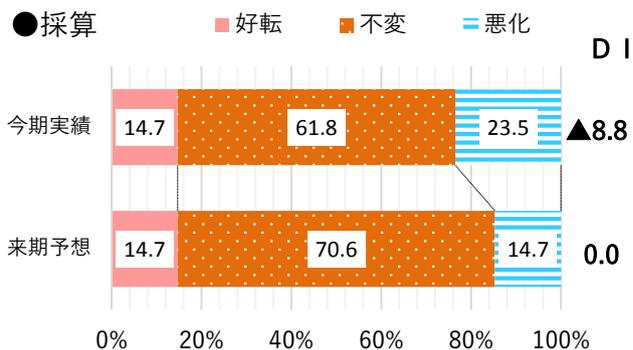
今期の売上高DIは17.6となりました。

来期は、今期と比べ売上の増加傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲8.8となりました。

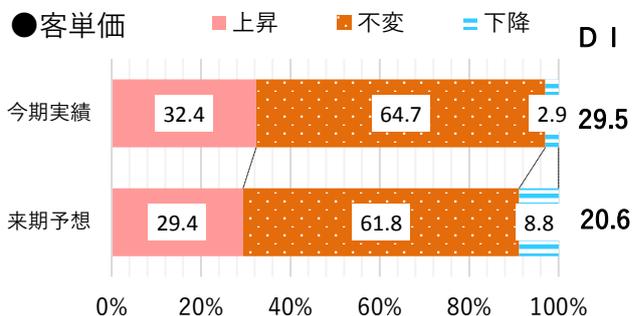
来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が改善されると予想しています。



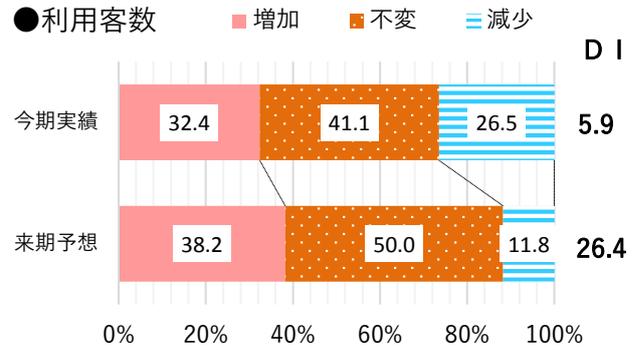
## 客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

今期の客単価DIは29.5となりました。

来期は、今期と比べ客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。

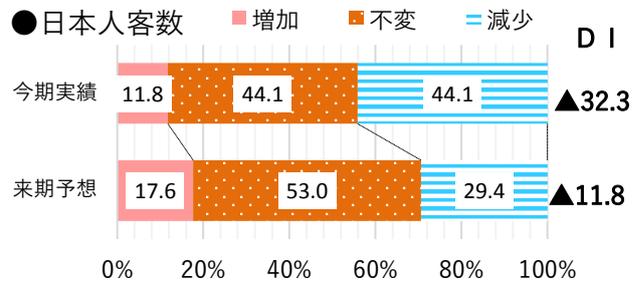


今期の利用客数DIは5.9となりました。  
来期は、今期と比べ利用客数の増加傾向が強まると予想しています。



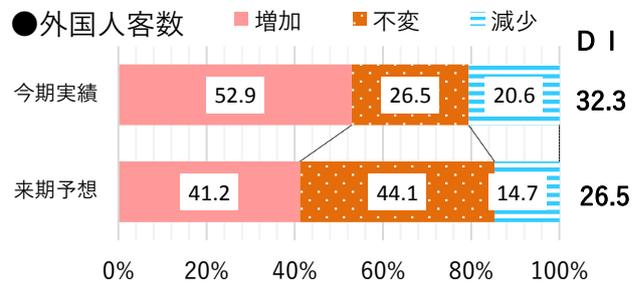
今期の日本人客数DIは▲32.3となりました。

来期は、今期と比べ日本人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



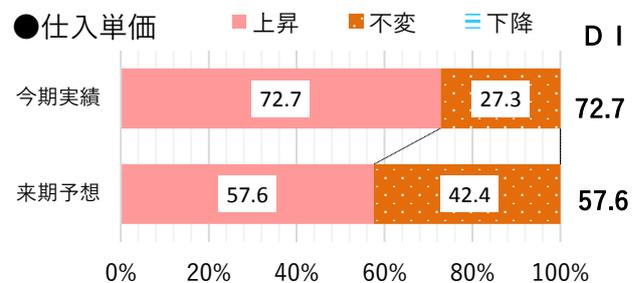
今期の外国人客数DIは32.3となりました。

来期は、今期と比べ外国人客数の増加傾向が弱まると予想しています。



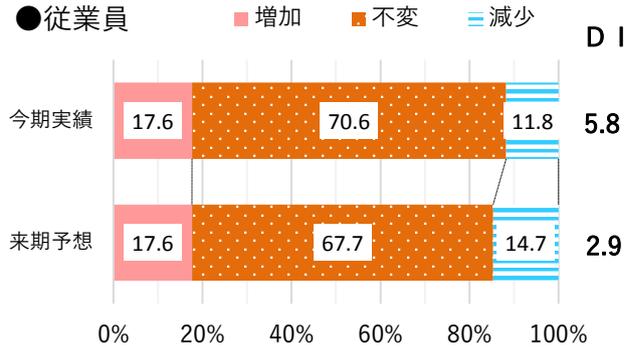
## 仕入単価

今期の仕入単価DIは72.7となりました。  
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。

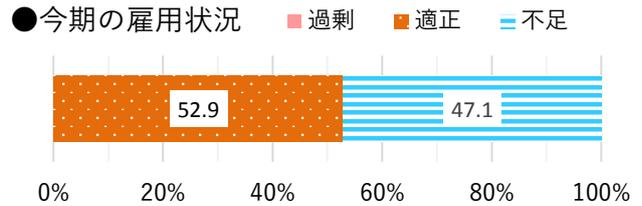


従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは5.8となりました。  
来期は、今期と比べ従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は52.9%、不足していると回答した企業の割合は47.1%でした。



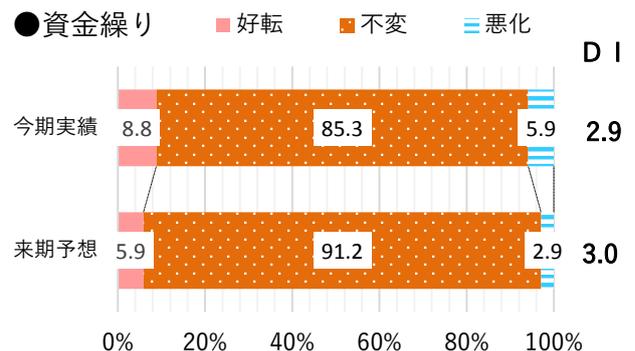
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の44.1%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

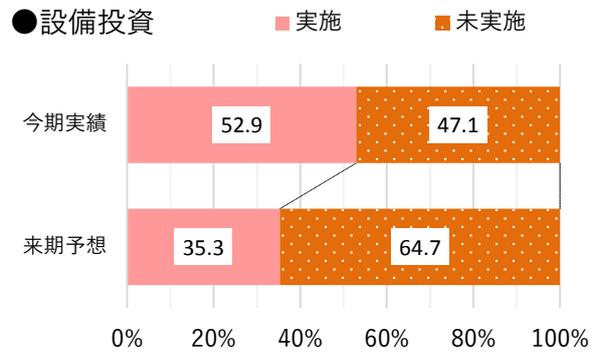
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは2.9となりました。  
来期は、今期と比べ資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は52.9%となりました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「付帯施設」の順です。

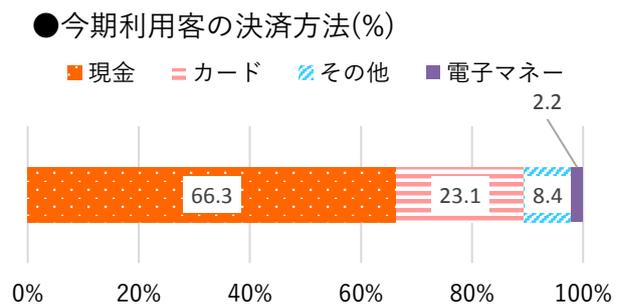
来期に設備投資を計画している企業の割合は35.3%で、今期と比べ減少すると予想しています。



### 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で66.3%、2位がカードで23.1%、3位がその他で8.4%、4位が電子マネーで2.2%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振込、小切手、旅行代理店による支払、クーポン券、掛売りです。

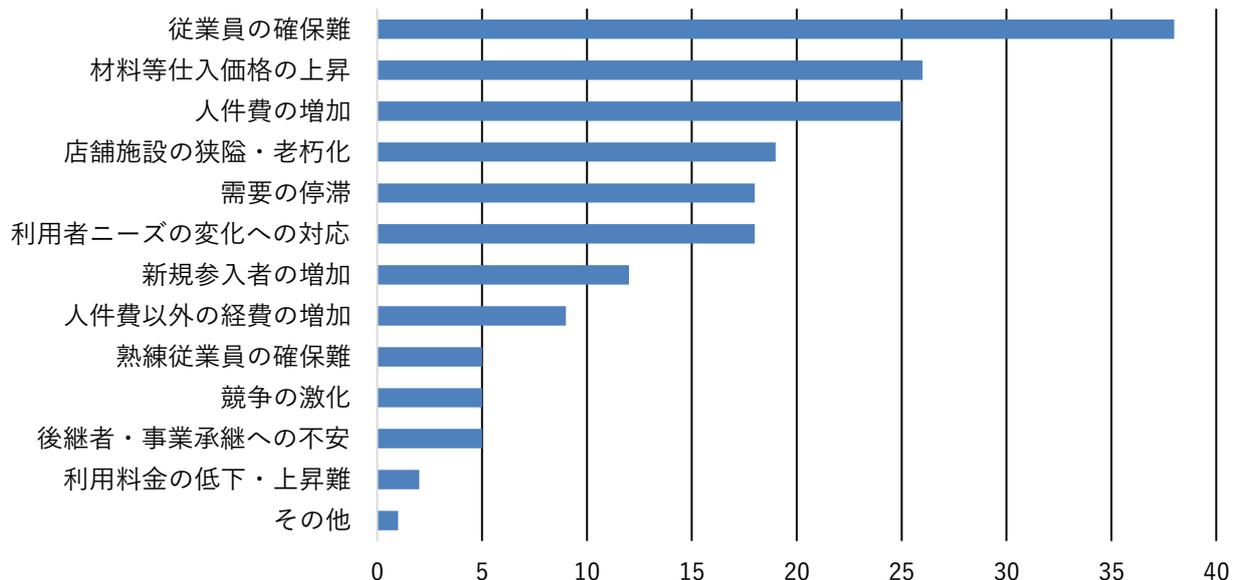


### 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は70.0%でした。

### 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 外国人客が増加した。(社会教育業)
- 1月、2月は前年よりも好調だったが、3月は大きく悪化した。(ホテル)
- インバウンド客が増加した。(ホテル)
- 2月の利用客数は増加したが、3月は減少した。消耗品価格が上昇している。(コテージ・ペンション)
- 冬期のインバウンドは客単価が高く、中国人、韓国人の来店が多かった。今年は旧正月と雪まつりが重なり、20時を過ぎても来店があった。4月から値上げを検討している。食べ歩きのお店や、丼の専門店等、ライバル店が増えたと思う。(飲食店)
- 胆振東部地震でキャンセルが相次いでいたが、年末年始は回復傾向にあった。(飲食店)
- 外国人客数に大きな変動はないと思われる。仕入価格が上昇した。(飲食店)
- インバウンドの来客が、業況に大きく影響している。(飲食店)
- どの業種も同様だと思うが、人材確保に苦しんだ。(飲食店)
- 地域経済の低迷、地震の影響、高速道路の開通などで客数が減少した。あらゆる資材やサービスが値上がりしており、利益を圧迫している。今期は雪が少なく、3月はやや来店客が増加した。(土産品)
- インバウンド客による購入が減少した。営業時間の短縮が、売上の減少につながった。(土産品)
- 売上は増加したが、水道光熱費の負担、機器の老朽化による修繕費が収益を圧迫している。(土産品)
- 東南アジアからの客に助けられている。雪が少なく、除雪費が例年の半分程度で済んだ。(土産品)
- 前半は悪天候により苦戦したが、後半は雪解けが早く、海外客を中心に客数が増加した。(土産品)
- 運送費が値上がりした影響で、仕入額等、各経費が微増した。(土産品)
- 原材料価格の上昇が、業況を悪化させた。(土産品)
- 株価等が比較的好調に推移したことにより、利用申込が若干増加した。(娯楽業)
- 利用客数は、前年同期比で1月は減少、2月、3月はやや増加した。外国人客は1割ほど減少した。(水運業)
- インバウンドの客数は前年と変わらない。日本人客が減少した。(レンタカー)
- 観光駐車場のみ営業のため、業況は不変となった。(船舶貸渡業)

## [来期の業況について]

- ゴールデンウィーク期の利用客増加が見込まれる。(社会教育業)
- 観光客数と供給客室数のバランスが取れるか、不安である。また、北海道ふっこう割の終了による反動が懸念される。(ホテル)
- 利用客は、4月は減少の見込みである。ゴールデンウィークには回復の見込みだが、従業員数の確保が課題である。(コテージ・ペンション)
- ホテルの建築予定があるため、売上の増加を期待している。夜間の来客への対応を進めたい。(飲食店)
- 2月に発生した地震の後、キャンセルが目立つ。影響が長引かないように祈っている。(飲食店)
- インバウンド対策と国内・地元客の確保が課題である。(飲食店)
- 今期と変わらぬ状況が続くと見込んでいる。雪解けが早かったので、GW商戦に期待しているが、後志自動車道の開通で、小樽への入込客数の減少を懸念している。(土産品)
- 春の原材料等諸物価の値上がりと、人件費増加による収益の減少が懸念される。(土産品)
- 新千歳空港の国際線増便により、外国人旅行客の増加を見込む。(土産品)
- キャッシュレス化の急激な進行が見込まれ、手数料負担の増加が懸念される。(土産品)
- 大型連休の到来による、観光需要の増加を見込んでいる。(土産品)
- 例年、冬期に比べ、1.8~1.9倍の利用客数となるため、増収が見込まれる。(水運業)
- ゴールデンウィークの10連休に期待している。(水運業)
- インバウンドの増加傾向が続く見込みである。ゴールデンウィークや、G20、ラグビーワールドカップなど、小樽圏内のイベントや、高速道路、新幹線事業もあり、好調と見ている。(レンタカー)
- ゴールデンウィークの前半は売上が期待できるが、後半は期待できない。(レンタカー)
- 観光船が4月から運行開始となり、料金改定により、売上の増加が見込まれる。(船舶貸渡業)

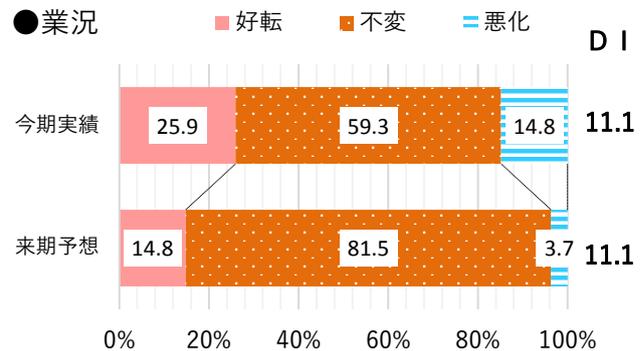
# サービス業

※サービス業には、前年同期比のデータを記載していません。

## 業況、売上、採算

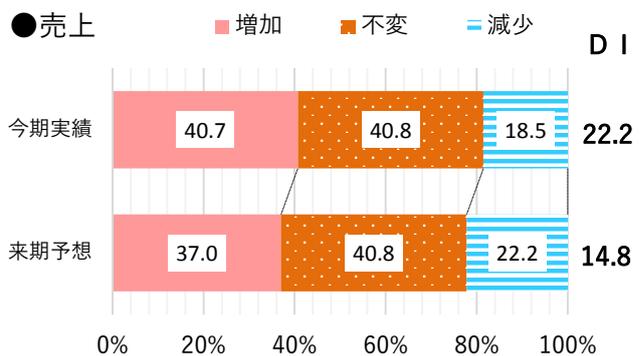
今期（H31.1～3）の業況判断DIは11.1となりました。

来期（2019.4～6）は、今期と比べ業況の横ばいを予想しています。



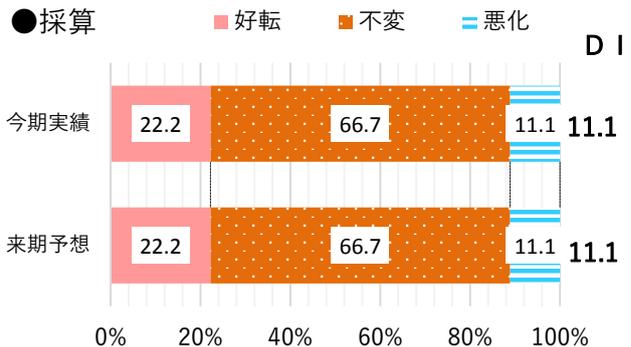
今期の売上高DIは22.2となりました。

来期は、今期と比べ売上の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは11.1となりました。

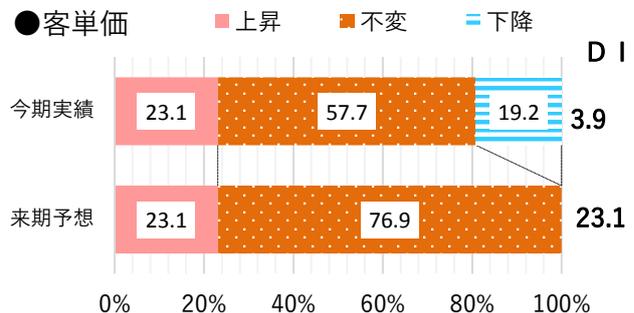
来期は、今期と比べ採算の横ばいを予想しています。



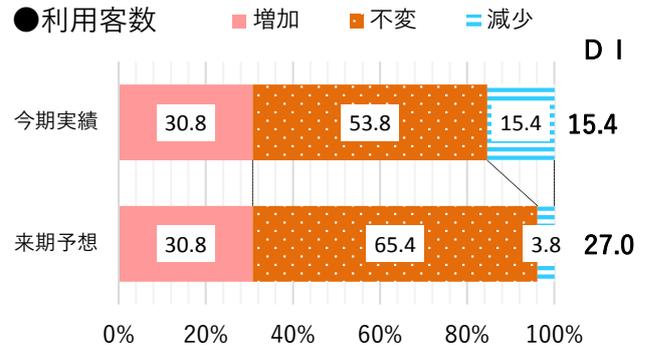
## 客単価、利用客数、仕入単価

今期の客単価DIは3.9となりました。

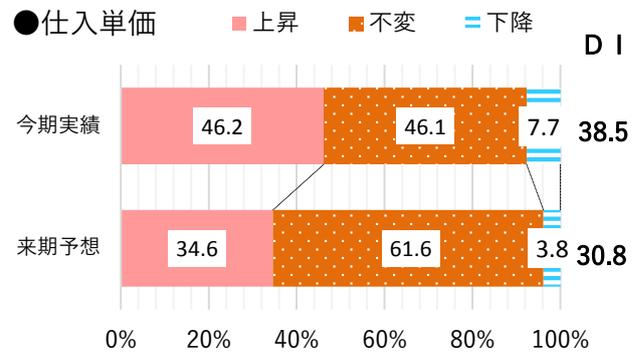
来期は、今期と比べ客単価の大幅な上昇を予想しています。



今期の利用客数DIは15.4となりました。  
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。

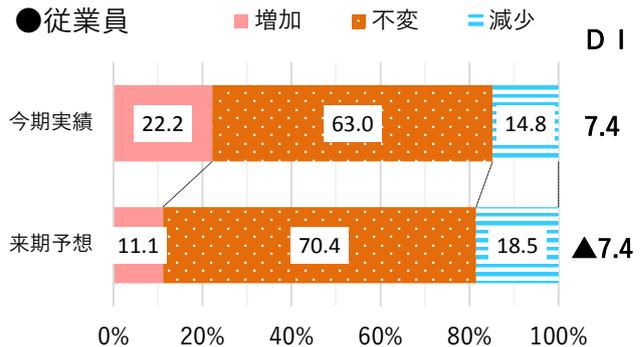


今期の仕入単価DIは38.5となりました。  
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。

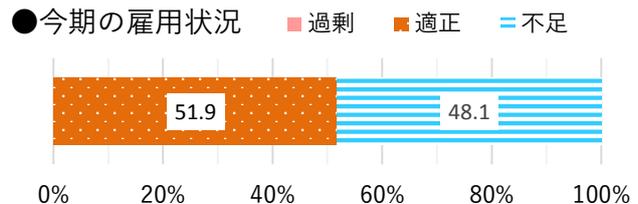


### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは7.4となりました。  
来期は、今期と比べ従業員数が減少に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は51.9%、不足していると回答した企業の割合は48.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の37.0%を占めています。

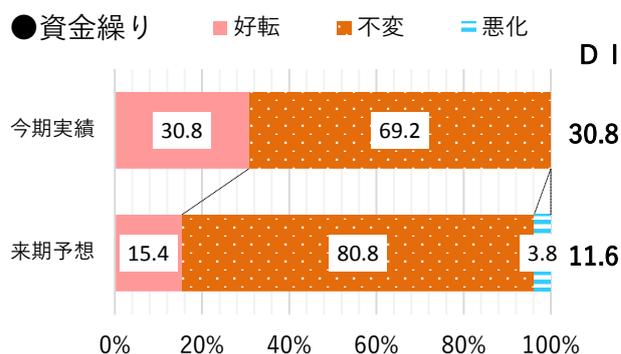
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

## 資金繰り、設備投資

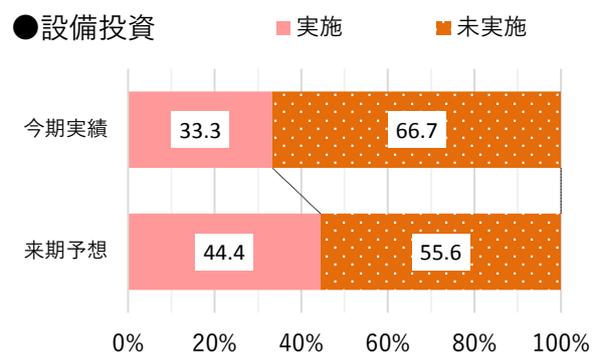
今期の資金繰りDIは30.8となりました。

来期は、今期と比べ好転の動きが大幅に弱まると予想しています。



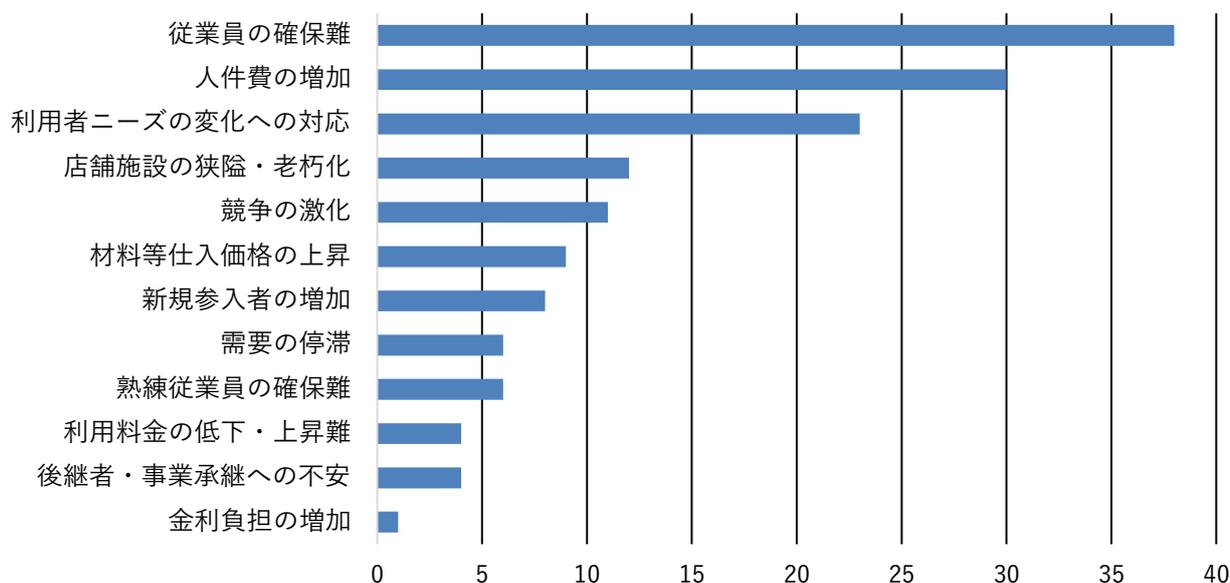
設備投資を実施した企業の割合は33.3%となりました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.4%で、今期と比べ増加すると予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- 観光客の入り込みは安定している。仕入価格は、麺が上昇しているが、野菜は変動するため、全体では不変である。最低賃金の上昇は、従業員の生活の質が向上するならば、理解できる。従業員の確保に苦労している。（飲食店）
- 店の立地条件により、冬期の来店者数は夏期に比べ減少した。2月の初旬は、札幌雪まつりの関係で、外国人観光客が増加した。地元客が少ないのが今後の不安である。（飲食店）
- 収入面では、前年比4%増となったが、多くはインバウンドに支えられている。（ビルメンテナンス）
- 最低賃金の上昇が、業況に大きな影響を及ぼしている。（ビルメンテナンス）
- 企業向けの売上の好調と災害対策（BCP他）の取組が好調である。（保険業）
- 契約件数、単価ともに減少した。（保険業）
- 利用客数が減少しているが、客単価が上がっており、採算を維持している。利用者に占める年金生活の方の割合が増えてきたため、利用回数をセーブする人が増えてきた。（美容業）
- 固定客が増えてきた。（美容業）
- 先行受注が比較的好調なため、業況は好転した。（旅行代理店）
- 利用客数が減少し、仕入価格は上昇した。（写真業）

### [来期の業況について]

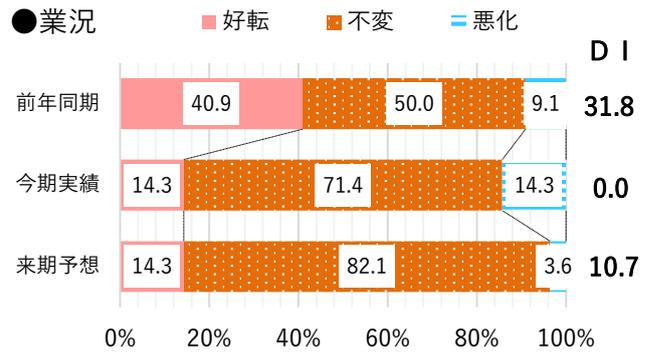
- ゴールデンウィークなどで集客が見込めるため、売上、経常利益が増加する予定である。（飲食店）
- 昨年の震災時に大きく収入を落としたこともあり、見通しは立たないが、大きな転機を迎える訳ではないため、不変だと考える。（ビルメンテナンス）
- 先行受注の好調が続く見込みである。（旅行代理店）
- 予約は好調である。ゴールデンウィークおよび統一地方選挙の動きを注視する。（スポーツ施設）
- 前年度並みの業況になると予想する。（出版業）

# 建設業

## 業況、売上、採算

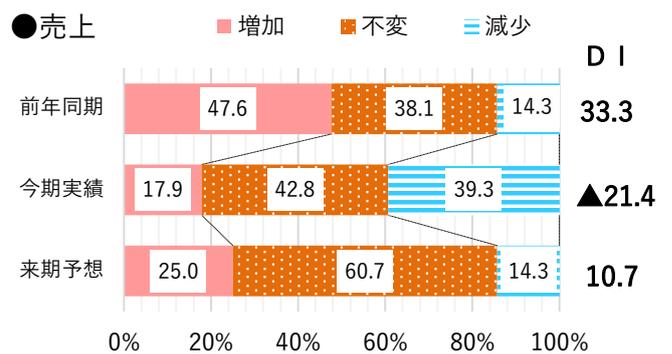
今期（H31.1～3）の業況判断DIは0.0で、前年同期(H30.1～3)と比べ31.8ポイント低下しました。

来期（2019.4～6）は、今期と比べ業況の好転を予想しています。



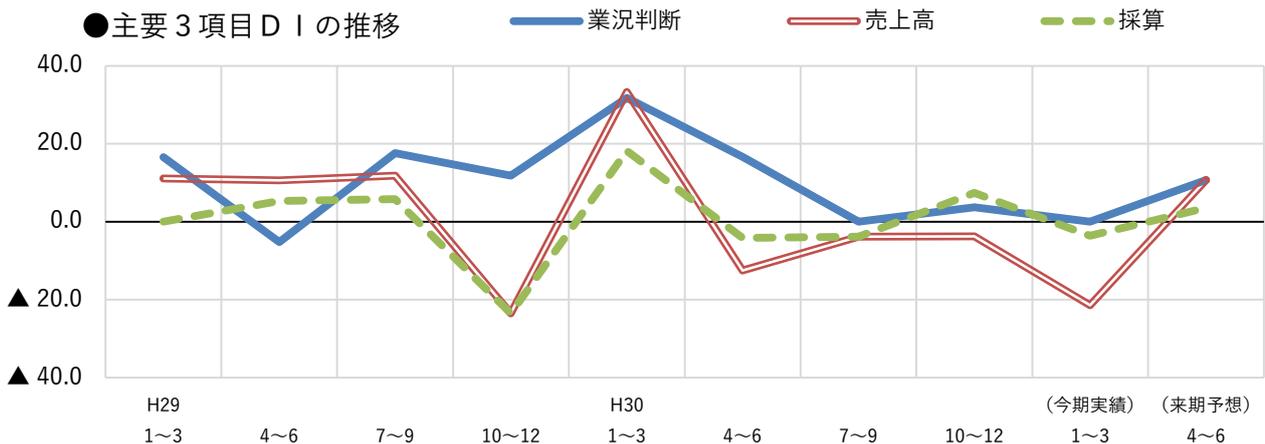
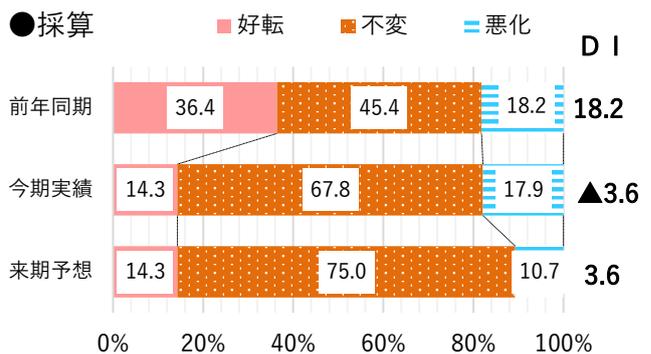
今期の売上高DIは▲21.4で、前年同期と比べ54.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が大幅に増加すると予想しています。



今期の採算DIは▲3.6で、前年同期と比べ21.8ポイント低下しました。

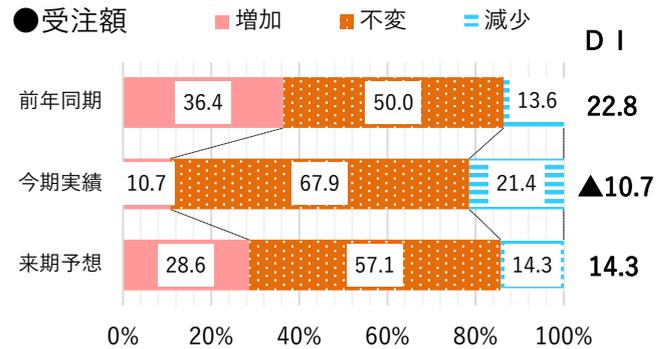
来期は、今期と比べ採算が好転すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

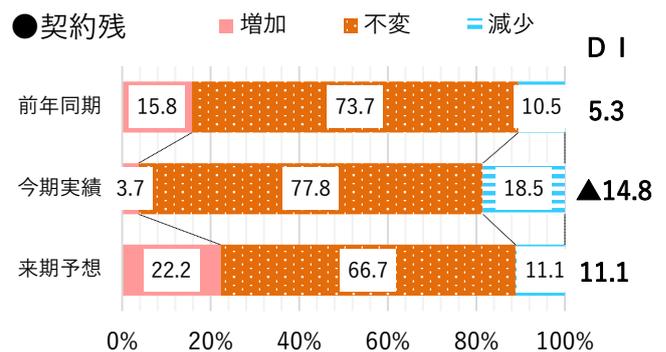
今期の受注額DIは▲10.7で、前年同期と比べ33.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ受注額の大幅な増加を予想しています。



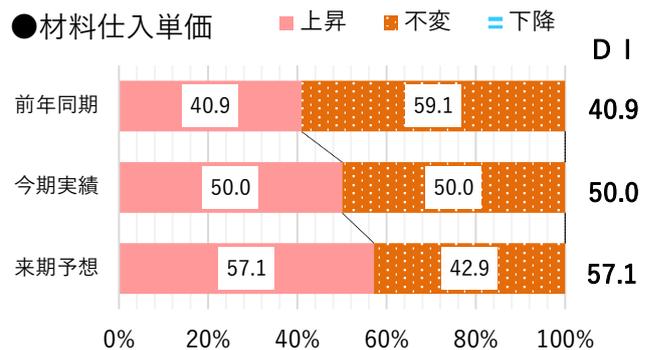
今期の契約残DIは▲14.8で、前年同期と比べ20.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ契約残の大幅な増加を予想しています。



今期の材料仕入単価DIは50.0で、前年同期と比べ9.1ポイント上昇しました。

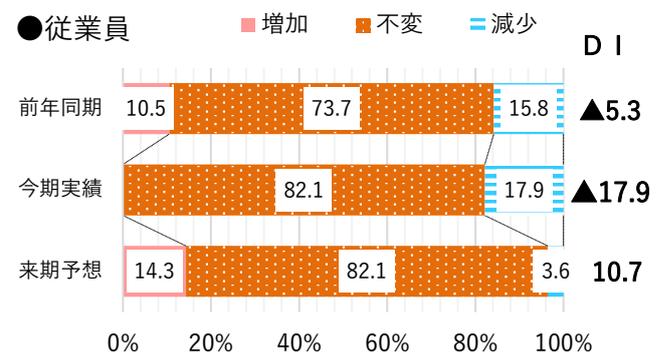
来期は、今期と比べ材料仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



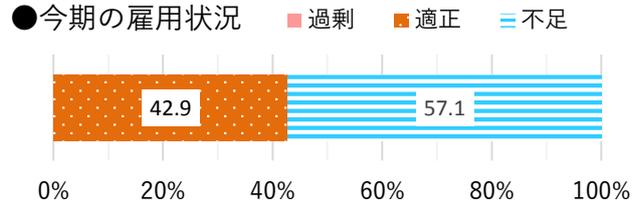
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.9で、前年同期と比べ12.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の大幅な増加を予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は42.9%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の42.8%を占めています。

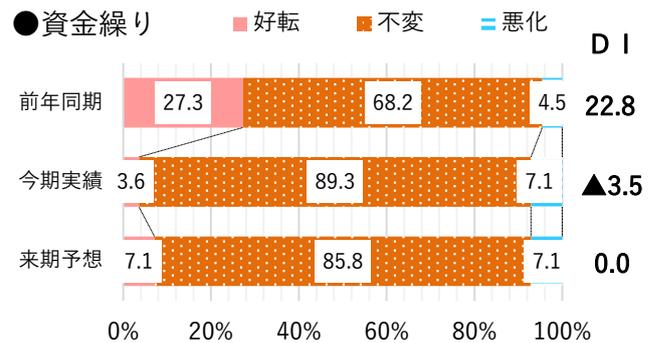
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	12
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

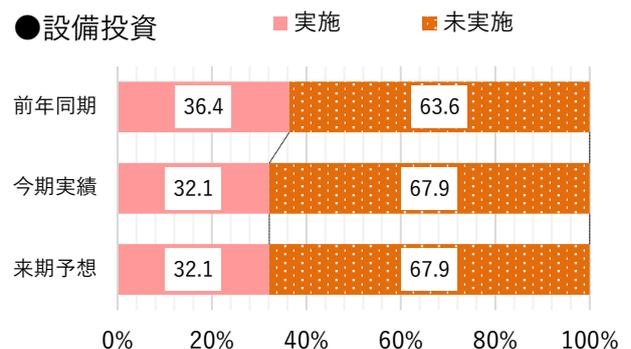
### 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲3.5で、前年同期と比べ26.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの改善を予想しています。



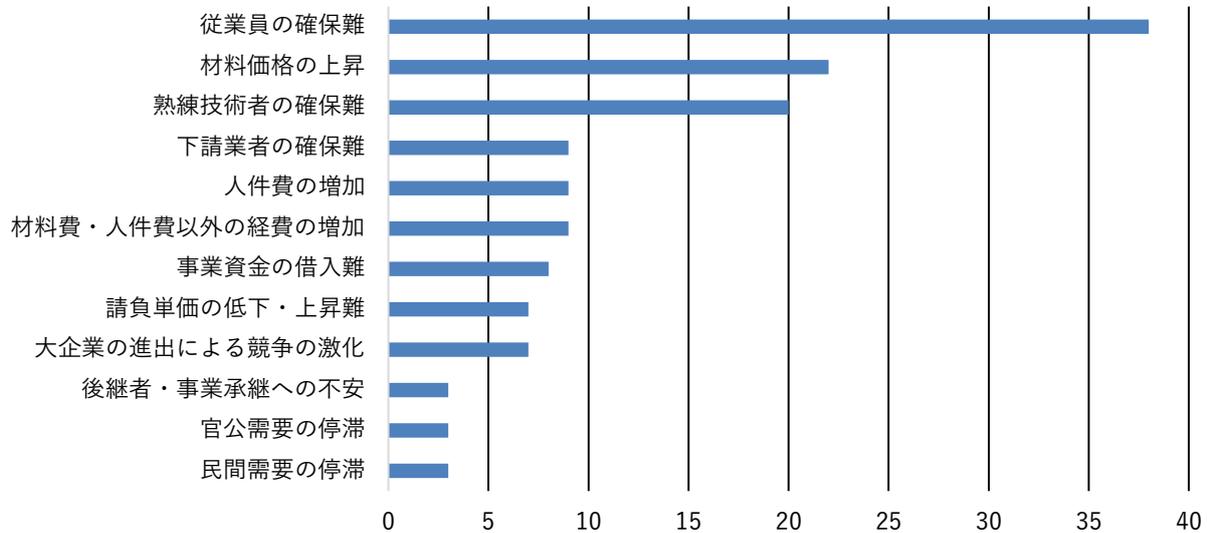
設備投資を実施した企業の割合は32.1%で、前年同期と比べ4.3%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、2位が「建設機械」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は32.1%で、今期と比べ横ばいを予想しています。

## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 技術者、職人共に人手不足で、増員しなければ、業況の好転は見込めない。（一般土木工事業）
- 雪が予想より少なく、除雪関係の仕事が減少した。（一般土木工事業）
- 受注数、受注額ともに前年よりは多少増加している。（一般土木工事業）
- 仕入単価が値上がりしている。（一般土木工事業）
- 前年が好調だったため、対前年比では受注、売上ともに減少した。利益率は確保できたため、採算に影響はなかった。（一般管工事業）
- 仕入単価が上昇し、受注と売上額が減少した。（職別工事業）
- 工事単価が低下した。（職別工事業）
- 人手不足が解消されず、売上が伸びなかった。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 碎石販売価格の値上げを予定している。（一般土木工事業）
- 変化は見られないと思うが、消費増税が近づくと、業況の振れ幅が大きくなると思う。（一般管工事業）
- 受注の減少と、資金繰りの悪化が予想される。（職別工事業）
- 人手不足が解消されなければ、業況に変化は無いと予想する。（電気工事業）

# 市内企業倒産状況

平成31年1月~3月  
負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比減少  
負債総額は1億2,800万円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	<u>2件</u>	<u>1億2,800万円</u>
前年同期比	件数 -1件 (前年同期 3件)	負債 -2億7,000万円 (前年同期 3億9,800万円)
■1月 運送業（負債8,000万円：業績不振による破産）の1件が発生した。		
■2月 なし		
■3月 食品卸（負債4,800万円：業績不振による破産）の1件が発生した。		

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

平成31年1月~3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は53件、前年同期比不変  
新設着工住宅戸数は42棟85戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<u>53件</u>	<u>42棟85戸</u>
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 53件)	戸数 +25棟+50戸 (前年同期 17棟35戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		